法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

和仏法律学校講義録

高野，岩三郎 / 鈴木，宗言 / 金井，延 / 富谷，鉎太郎 / 杉本，貞治郎 / 加藤，正治 / 粟津，清亮

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
2-7
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
45
(発行年 / Year)
1899-05-10

第七號 經濟學

商法（一頁至九頁）法學士加藤正治

（一四頁至一五六頁）法學士高野岩三郎

（一頁）法學博士富谷鉎太郎

（一頁）法學士粟津清亮

（一四頁）法學博士金井延

（一〇頁）法學士鈴木宗言

（一三頁）法學士杉本貞治郎

正誤

加藤學士ノ海商法第七號第五十二頁七行目影響スル所ノ次キ掛カラスノ前ニ左ノ三十四字ヲ脱ス

最モ尠ク反之「フランク」「ハンス」ノ兩法源ハ大ニ重要ニシテ後世ニ影響スル所

次

法學部用

私法學講義錄

第貳編

第七號

毎月貳回

目次

手形法（自一頁至四頁）法學博士富谷鉁太郎

商法保險（自一頁至八頁）法學士栗津清亮

經濟學（自二八ノ二頁至三四頁）法學博士金井延

破産法（自四一頁至六〇頁）法學士鈴木宗言

商法總則（自三三頁至四〇頁）法學士杉本貞治郎

海商法（自四九頁至六四頁）法學士加藤正治

經濟學（自一四一頁至一五六頁）法學士高野岩三郎

討論會記事

前號ニ豫告セシ如ク先月廿三日午前九時ヨリ本校第一講堂ニ於テ和佛法學會大討論會ヲ開キ本校講師校友生徒ノ外府下各法律學校々友生徒ノ討論ヲ許シ梅會長親シク臨席シテ論旨ノ優劣ヲ判定シ優等者四名ニ對シテ賞品ヲ贈與セラレタリ尚ホ當日ノ來會者ハ無慮二千名ニ上リ討論終結ノ後採決ニ付シタル結果大多數ヲ以テ消極論ノ勝利ニ帰シタリ主論者及ヒ受賞者左ノ如シ

主論者
- 積極說……法學士 岡村司君
- 消極說……法學士 若槻禮次郎君

受賞者
- 第一等（民法要義 一二三四四冊）和佛法律學校々友 小田幹治郎君 明治法律學校生徒 原圓次郎君
- 第二等（民法要義 三四 二冊）和佛法律學校生徒 山本喜勇君
- 第三等（民法要義 一二 二冊）東京法學院生徒 堀江專一郎君

090
1879
2-1-7

手形法

法學博士 富谷鉎太郎 講述
校友 守谷富之助 編輯

緒言

予ノ擔任ハ既ニ諸君ノ知ラルヽ如ク商法第三編手形法則ノ講義ナレハ先ツ其端緒トシテ手形法ノ性質及ヒ其法制沿革ノ大要ヲ述ヘントス

第一　手形法ノ性質　手形トハ手形法則ニ從ヒ作成シタル商業證券ニシテ其目的ハ一定ノ金額ヲ支拂ヒ又ハ支拂ハシムルニ在リ手形ノ作成人即チ振出人ハ手形ニ記載シタル一定ノ金額ヲ一定ノ場所一定ノ時期ニ於テ之ニ記載シタル人（受取人）又ハ裏書ニ依リテ手形ヲ取得シタル人（裏書讓受人）又ハ其所持人ニ

支拂フヘキ旨ヲ委託スルコトアリ或ハ又其振出人ハ委託ヲ爲サスシテ自ラ手形金額ヲ支拂フコトヲ約スルコトアリ右何レノ場合ニ在ルヲ問ハス手形ニ因リテ生スル法律上ノ關係ハ一ノ債務關係タルニ外ナラス又手形ノ趣旨即チ其約旨ハ右ノ如ク二種ノ區別アリト雖モ其目的ハ彼此ノ場合共皆同一ニシテ金錢ナリトス金錢以外ノ事物ハ約束ノ目的ト爲スコトヲ得ス且手形ニ因ル債務ハ他ノ通例ノ法律關係ニ於ケルモノヽ如ク無方式ニ之ヲ生セシムルコトヲ得ス別言スレハ當事者ノ意思表示アルノミニテ直チニ發生スルモノニ非スシテ其發生ニハ必ス書面ヲ以テスル意義ノ表示ヲ必要トシ且其書面ハ法定ノ方式ニ適合スルニ非サレハ効力ヲ有セサルナリ手形債務ハ法律ノ規定ニ從フテ作成シタル書面ニ依ルニ非サレハ其目的ハ如何ニ明瞭ナルモ當事者ノ意思表示ハ如何ニ確的ナリトスルモ決シテ成立スルコトヲ得サルモノトス然レトモ一旦法律ノ規定ニ依ル手形ヲ作成スルトキハ之ヲ作成シタル原因ノ如何ハ勿論之ヲ問フコトヲ要セス其有無ニ拘ラス手形ニ依リテ權利者タル證明ヲ爲ス者ハ之ニ記載シタル如ク其權利ヲ行フコトヲ得ヘク又其義務者ハ之ニ記載シタル債務ノ履行ヲ爲ス責ニ任ス約言スレハ手形債務ハ要式書面ノ作成ニ因リ成立スル絶對的ノ債務ナリト謂フコトヲ得ヘシ

手形法トハ手形ノ債務關係ヲ規定シタルモノナルカ故ニ汎博ニ之ヲ理解スルトキハ一般ノ債務關係ニ適用スヘキ法則モ亦手形法ナリト謂フコトヲ得ヘシ例ヘハ債務能力ノ規定ノ如キハ手形法則中ニハ之ヲ規定セサルトキト雖モ右ノ意義ニ於テハ手形法ナリト謂フヘキカ如シ手形ノ成立原因トナルヘキ民法又ハ商法ノ一般ノ法律規定ニ從フヘキ法律關係ニ對スル規定ノ如キモ亦然リ例ヘハ手形ノ振出人ト其支拂人トノ間ニ於ケル手形賣金ニ關シ適用スヘキ法律ノ如シ故ニ手形債務モ亦一般債務ノ原則ニ支配セラルヘキコト勿論ナリトス」右ニ述ヘタル如ク手形ノ債務ト雖モ一般債務法ノ原則ニ從フヘキコト勿論ナリト雖モ手形ノ効用ヲ十分ナラシムル爲メ商業證券トシテ之ヲ金錢ニ代用シ其流通上充分ノ信用ヲ有セシムル爲メニハ一般債務法ノ規定ノミヲ以テハ未タ足レリト爲サス更ニ手形ノ目的ニ適當ナル規定ヲ設ケテ之ヲ施行セサルカラス是レ別ニ手形法則ノ制定アル所以ナリ

抑モ手形ノ効用ヲ完タカラシメントスルニハ信用ヲ保護シ之ヲ發達セシムルニ若カス其信用ヲ充分ナラシムル爲メニハ手形ニ記載シタル金錢ノ支拂ニ關スル約趣カ正確嚴重ニ履行セラルヘキ規定ノ保護ヲ必要トス手形ニ記載シタル場所及ヒ其時期ニ於テ手形金額カ確實ニ支拂ハルヘシトノ信用アリテ始メテ手形ノ効用ヲ完全ナラシムルコトヲ得ヘシ例ヘハ權利ノ證明ヲ簡易ニシ債務者ノ抗辯事由ヲ制限スル規定ヲ設ケタル如キ蓋シ右ノ理由ニ因レルモノナリ手形債權者ヲ保護スル特別規定ヲ設クルト同時ニ他ノ方面ニ於テハ債務者ノ爲メ債權者ヲシテ極メテ嚴格ナル手續ヲ履行セシムル規定ヲ設ケタルコト例ヘハ手形ノ支拂ヲ請求シタル場合ニ若シ債務者カ債務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ一定時限内ニ支拂拒絶證書ヲ作成シ償還ノ通知ヲ發セサレハ或權利ヲ失フヘキコト手形ニ特別ノ記載アリテ其記載カ法律上効力ヲ生スヘキモノナルトキハ其趣旨ニ隨ハサルヘカラサルコト等ノ規定ノ如キハ要スルニ手形ノ効用ヲ充分ナラシメンカ爲メニ設ケタルモノニシテ手形債務ニ關スル特別ナル法則ナリトス故ニ狹義ニ手形法ノ意義ヲ解スルトキハ手形ニ因リテ生スル法

商法保險

法學士　粟津清亮　講述
校友　守谷富之助　編輯

緒言

保險ハ人類經濟的活動ノ頗ル重要ナル事項ナリ抑モ此制度カ何時ノ頃ヨリ發生シタルカハ歴史ニ就テ判然ト之ヲ徵スルコトヲ得ス百般ノ制度ニ於テ最モ發達シタル羅馬ニモ之ヲ見出タスコト能ハス又商業航海ノ術ニ長ケタリシ「フヰニヤ」ニモ必ラス保險ノ方法アリシナラント想像セラルヽノミニシテ未タ確タル之カ證跡ヲ得ル能ハス保險法學者中ノ先輩タル佛人「アローゼ」ハ保險ノ起源ヲ探求シテ「アッシリヤ」埃及支那日本等ニ之ヲ求メタレトモ遂ニ得ル所無シ

ト言ヘリ然リ而シテ漸ク保險ノ萠芽トモ稱スヘキモノハ十世紀ノ頃歐洲ニ所謂自由都府ナルモノアリ其住民カ危難疾病等ヲ互ニ救濟スルノ會合ヲ作レルトキニ發生セリト謂フヘシ是等ハ其名稱ヲ寡孤救濟會災厄互救會等ト稱セリ是レ蓋シ保險思想ノ發現ナランカ降テ十二世紀ノ頃自由都府益發達シ地中海沿岸ノ稍頻繁ニ赴キシモ時未タ野蠻半開ニ屬シ都府ヨリ都府ニ至ルノ途中ニテ或ハ海賊横行シ或ハ風浪暗礁ノ危險多カリシニ因リ是等都府ノ商人相一致連合シテ保險ナル名ヲ附シテ組合ヲ作リ彼等カ所有スル船舶貨物ノ危險ヲ保證スルコトヲ始メタリ

凡ソ損害ノ負擔ハ之ヲ負フ人數ノ增加スルニ隨ヒ各人苦痛ノ程度ヲ減シ其極遂ニ些ノ困難ヲモ感セサルニ至ル彼等ハ此思想ヲ基礎トシテ此組合ヲ作リタル・ナリ是レ海上保險ノ權與トモ謂フヘキモノニシテ此組合ハ初メ一都府ニ於テノミ之ヲ作リシカ爾後漸ク發達シテ外國人ノ危險ヲモ救助擔保スルニ至レリ伊白人等始メテ之ヲ營ミ次テ英國ニ及ヒ爰ニ稍完全ナル根據ヲ得テ漸次隆盛ニ向ヘルナリ故ニ保險ノ起源ハ伊太利ノ自由都府ニ在リト云フテ可ナリ

此海上保險ニ次テ起リシモノヲ火災保險トス昔時ニ在リテハ建築防火ノ方法其宜シキヲ得ス諸國ノ都府火災ノ爲メニ害ヲ被ルコト甚シカリキ是ニ於テ獨逸聯邦中ノ或主權者ハ其人民ニ命シテ平素ヨリ幾分ノ積金ヲ爲シ一朝火災ノ爲ニ家屋器具ヲ燒失スル場合ノ補償ノ用ニ供セシメタリ此ノ如ク最初ハ命令ヲ以テ之ヲ强制セシカ人民各自其必要ヲ悟ルニ及ヒ自ラ進ンテ之ヲ爲スニ至レリ

火災保險ニ次テ起リシモノハ生命保險ナリ其外或ハ收獲保險ナルモノ出テ或ハ家畜保險生シ或ハ又債權保險疾病盜難風水害等種々ノ保險ヲ生シ近時ニ於テハ兵役保險ナルモノ發生スルニ至レリ要スルニ海上火災生命ノ三大保險ノ發生ニ次テ種々ノ保險發生シ此等ノ保險カ會社ノ發達ヲ助ケタルコト洵ニ著大ナリトス而シテ十世紀ヨリ今日ニ至ル一千年ノ間ニ於テ種々ノ法律制度發生シ或ハ慣習法アリ或ハ成文法アリ英國ニハ前者多ク獨逸ハ後者ノ最モ發達セル所タリ其他ノ諸國ニ於テ漸次完全ナル成文法規ヲ制定スルノ傾向アリ日本ニ於テモ現行商法中ニ隨分煩雜ナル規定アレトモ今回修正商法ヲ以テ代

ヘラルヽニ至レリ修正商法ニハ現行商法ヨリ其規定少ナシ蓋シ細密ナル規定ヲ設ケンニハ殆ト際限ナキカ故ニ原則ノミヲ掲ケ以テ一般ヲ推測セシムルニアルヘシ而シテ保險ノ公法ニ關スル部分ハ現行商法ニハ之ヲ規定セリト雖モ修正商法ニハ削除セリ但其公法ニ關スル部分ハ別ニ之ヲ規定シ次期ノ議會ニ提出スト聞ク果シテ然ル上ハ既定ノ保險法ト相俟テ始メテ全キヲ得ヘシト信ス

然リ而シテ此保險法ヲ研究スルニ付テハ其組織、沿革、學理及ヒ社會ニ對スル影響等ヲ會得スルニ非サレハ滿足ノ講究ヲ爲ス能ハサルヘシ例ヘハ民法ハ人類ノ固有性ヲ本ト爲スニ因リ普ク習慣、風俗等ヲ參考トスヘキカ如ク保險法ヲ說クニハ此制度ノ亦學術的基礎即チ數學、統計學、醫學等ノ智識ヲ必要トス畢竟スルニ保險法ヲ講究スルニ付テハ單ニ法律ノ智識ノミニ依リテハ眞正ノ解釋ヲ爲シ得サルヘシ

第一編　保險汎論

第一章　保險ノ要素

凡ソ人ノ此世ニ處スルヤ不慮ノ災害之ヲ襲ヒ屢其財產ヲ破壞スルコトアリ先ツ財產ノ根本タル人類ノ生命ヲ奪ヒ健康ヲ害スルカ如キヲ初メトシ有體ノ財產ヲ損害スル所ノ災害擧テ數フヘカラス人類ハ最モ之ヲ恐レ之ヲ免レント欲スレトモ智識ノ及ハサル所多クシテ止ムヲ得ス其犧牲ニ供セラル是ニ於テカ其災害ノ爲ニ受ケタル所ノ損害ヲ事後ニ排除シ若クハ輕減スルノ途ヲ講スルニ至ル保險ハ即チ其最大良策ナリ而シテ不慮ノ災害ハ之ヲ危險ト曰フ保險ハ此危險ヲ目的トス故ニ危險ハ保險ノ一要素ナリ

危險ノ發生シタル際ニ成ルヘク其負擔ヲ輕クセントスルニハ多數ノ人ニ之ヲ分タサルヘカラス即チ人類ノ集合ハ第二ノ要素ナリ茲ニ多數ト云フハ二人以上ト云フ如キ嚴重ナル意味ニアラスシテ俗ニ稱スル多衆ナリ

第二章　保險ノ組織

結社ハ保險ノ要件タルコト既ニ明ナリ而シテ此結社カ昔日ヨリ今日ニ至ルマテ多クノ變遷ヲ經タルコトヲ忘ルヘカラス最古ノ保險制度ハ同業組合又ハ慈善會ノ變形ニシテ事故ノ發生ニ當リ會員ハ相當ノ醵金ヲ爲スノ方法ナリ然ル

ニ醵金ノ度數不規則ニシテ煩雜ナルヨリ豫シメ一定ノ醵金額ヲ定メ置キ以テ其途ニ充テタリ然レトモ一定ノ醵金額ハ互ニ情況ヲ異ニセル組合員ニ對シテ不公平ニシテ且其豫定額カ給與額ト一致セスシテ不足ヲ生シタル場合ニハ更ニ特別ノ醵金ヲ促サルヘク殊ニ醵金ヲ怠ル者ニ對スル督促煩ニシテ事ヲ掌ル者ノ困難尠少ナラス

是ニ於テカ一方ニハ正當ニシテ過不及ヲ生セサル所ノ醵出金即チ保險ヲ算出センカ爲メニ災害ノ統計ヲ調査シ一方ニ在リテハ從前ノ世話人化シテ營利者トナリ而シテ此營利者カ全體ニ對スル責任ヲ負フ之レ保險組織ノ第三期ナリトス此營利者ハ無窮ノ人類ヲ集合セシメテ益完全ニ保險ノ實行ヲ爲ス是レ即チ現時ノ保險組織ナリ

國家カ保險ト認メ法律カ保險トシテ規定シ學問上保險ト云ヒ予カ保險トシテ爰ニ述フルハ此最終ノ保險ナリ

保險ノ組織ハ保險者カ實際被保險者ト別物ナリト云フコトヽ同一ナルコトヽニ因リテ營業保險ト共濟保險ノ二種ニ區別スルコトヲ得

第一　營業保險

營業保險トハ先ツ保險者ナルモノ發生シ多數ノ被保險者ヲ集メテ損害塡補ノ業ヲ行フ者ヲ云フ此保險ニ於テハ保險者ハ被保險者ト全ク利害ノ相反シタル敵對ニシテ保險料ノ利得ハ保險者ノ收ムル所ナリ此組織ハ營利ヲ目的トスル保險者カ最モ多ク採用スルカ故ニ營業保險ト名ケタリト雖モ營利ヲ目的トセサル所ノモノ例ヘハ國家、公共團體、又ハ慈善家カ此組織ヲ採用シテ保險事業ヲ行フコトヲ妨ケス

第二　共濟保險

此保險ニ於テハ被保險者相集リテ保險者ヲ形成スルモノニシテ而モ保險者ノ利益ト被保險者ノ利益ハ衝突スルコトナシ即チ人民ノ集合カ複數ト爲リテハ被保險者ト爲リ單數ト爲リテハ保險者ト爲ルノ組織ヲ云フ世俗ニ所謂相互保險ト曰フハ此組織ノ謂ナリ而シテ予カ茲ニ相互保險ナル名稱ヲ用ヒサルハ相互保險ト云ヘハ甲ハ乙ヲ保險シ乙ハ又甲ヲ保險スルト云フカ如キ相互的行爲ヲ指スモノト誤解セラルヽノ虞アレハナリ

第三　混合保險

保險事業ヨリ生ゼタル利益ヲ保險者ト被保險者カ分配スル組織ニシテ共濟保險ト營業保險ヲ混合シタルノ觀アルヲ以テ此二者ト相並ヒ一種特別ナル保險ノ如ク曰ハルヽト雖モ元來營業者カ被保險者ノ歡心ヲ買ハンカ爲メニ利益分配ノ規定ヲ設ケタルニ過キス爰ニ又共濟保險ニシテ營業保險ヲ行フ者アリ例ヘハ會員ノ團體タル共濟保險會社カ確定シタル保險料ヲ以テ他ノ保險契約ヲ締結スル場合ノ如シ是レ亦混合保險組織ト名クルコトヲ得ヘシ

第三章　保險ノ形式

保險ノ要素ハ不測ナル災害ノ發生ト是ヲ恐ルヽ所ノ人類ノ結合ナルコトハ既ニ前章ニ述ヘタルカ如シ而シテ此二要素ヲ具備スレハ保險ハ成立スルニ似タリト雖モ此ノ如キ保險ハ所謂古代ノ保險ニシテ今日ハ之ヲ保險ト曰フコト能ハス蓋シ今ノ保險ハ未來ニ發生スヘキ損害ノ精確ナル豫算ヲ編製シ並ニ正當ニ之ヲ實行スルコトヲ要ス換言スレハ道理ト正義ニ適ヒタル保險料ヲ算出シ之ヲ正當ニ處分シ管理スルノ方法ヲ具備スルノ必要アリ此等ノ要件ヲ保險ノ形

リテ或ル特定ノモノニ利益ヲ與フルノ關係ナリ即チ特ニ法律ノ力ニ據リテ始メテ生スル所ノ關係ナリ法律ノ力ヲ特ニ借ルヲ要セスシテ生スル所ノモノハ前ニ論シタル人ノ勉勵信用等ニ基キテ自然ニ生スル得意ノ如キモノニシテ專賣特許ノ如キモノトハ大ニ其趣ヲ異ニス

(以)人生ノ必要ニ應スル事業ヲ終始怠リナク規則正シク執行セムカ爲メ設ケラレタル諸種ノ制度文物殊ニ公益ニ關スル諸種ノ施設

是レ人類ニ必要缺ク可カラサル事業ヲ永久的ノ目的ヲ以テ絕エス執行セムカタメ設ケラレタル諸種ノ制度文物ナリ其中ニテ公益ノタメ存在スルモノヽ一ハ國家其物ナリ國家ハ元ヨリ財貨タルノ性質ノミヲ有スルモノニ非ス他ニ種々ノ性質資格ヲ有スト雖モ國家ノ人生ニ缺ク可カラサルモノタルト人類カ之ニ因リテ完全ニ自己ノ欲望ヲ充スヲ得ル點ヨリシテ論スレハ國家モ亦一種ノ財貨ナリト謂ハサル可ラス而シテ國家ノ有スル此性質ハ一種ノ關係ニ過キサルカ故ニ經濟學上之ヲ有利關係ノ一トスルヲ可トス之ト同樣ニ國家內ノ地方自治

團体其他半官半民ノ性質ヲ有シ人生ニ必要缺ク可カラサル總テノ制度文物モ亦此種ニ屬ス然レトモ同一ノ制度文物ハ何レノ場合ニ於テモ皆悉ク此種ニ屬スト速斷ス可ラス時ト所トヲ異ニスルニ因リ此點ニ於テ非常ナル差違アリ例ヘハ赤十字社ノ如キ今代ニ於テハ實ニ人生ニ欠ク可ラサル必要事業ニシテ稍半官半民ノ性質ヲ有スルモノナリト雖モ古昔ニ在リテハ其必要認メラレサリキ否此事業ハ全ク之ナカリシナリ

右陳述スル所ニテ有利關係ノ重ナルモノハ之ヲ盡シタリト雖モ尚ホ附説ス可キハ右三種ノ有利關係ヨリ生スル一種ノ權利ナリ之ヲ更ニ次ノ(ニ)ノ下ニ財貨ノ一種ト看做スヲ可ナリトス

(ニ) 所有權以外ノ權利ニシテ第三者ノ勤勞、貨物等ニ對スル請求權ヲ與フルモノ

例ヘハ或種類ハ契約ニ基ク權利ノ如キモ亦一種ノ財貨ト看做サヽル可ラス

例ヘハ甲乙間ニ締結サレタル契約ニシテ丙(勤勞又ハ貨物)ヲ使用シ得ル權利ノ如キハ一種ノ有利關係ヲ生シ之ニ因リテ種々ノ點ニ於テ自己ノ欲望ヲ滿足シ得ルモノナリ故ニ一種ノ財貨ナリト謂ハサルヲ得ス然レトモ是レ有利關係ヲ財貨ノ中ニテ稍附屬的ノ性質ヲ有スルモノナリ

以上陳述シタル所ニ據リ財貨ノ種類ヲ表示スレハ左ノ如シ

- 財貨
  - 性質……欲望ノ滿足ニ適當ス
  - 種類
    - 內界ノ財貨
    - 外界ノ財貨
      - 自由財貨
        - 絕對的自由財貨
        - 相對的自由財貨
      - 經濟上ノ財貨
        - 貨物（組製品、造品等）
        - 人物財貨
          - 人勤（其者勞）
        - 有利關係
          - 全ク自由ノ交通ヨリ起ルモノ法
          - 令ノ制限ヲ俟テ起ルモノ人生ノ必要ニ關スル制度組織權利ノ一種

第三章　價直

註　(價直トハ獨逸語ニテ「ヴェルト」(Wert)ト稱スルモノニシテ其ノ意義頗ル廣シ英吉利語ニテハ普通之ヲ「バリュー」(Value)ト譯スレトモ「バリュー」ト「ウェルト」トハ其ノ意義ノ廣狹大ニ異ナルモノアルヲ觀ル蓋シ「バリュー」ハ價直ヨリモ寧ロ

價直ノ一種タル價格ニ相當スルヲ以テ學者或ハ二者ヲ同一義ニ解スル者アルカ如シト雖モ予ハ之ヲ區別シテ使用セント欲ス故ニ此所ニ所謂價直トハ其ノ意義ノ極メテ廣キモノナルヲ知ラサル可ラス

價直トハ之ヲ有スル財貨カ人類經濟上ノ目的ヲ達スルニ足ルノ性質ニシテ人ノ認識スル所ノモノナリ之ヲ換言スレハ價直トハ人ノ認メテ以テ其ノ欲望ヲ滿足スルニ適當ナリト爲ス所ノ財貨ノ性質ナリ而シテ此性質ハ之ヲ他ノ財貨カ人ノ欲望ヲ滿足スルニ適當ナル性質ト比較スルニアラサレハ之ヲ明カニ知ル可カラス故ニ價値ハ財貨固有ノ性質其モノニアラスシテ此ノ性質ヲ人類カ主觀的ニ認識スルニ因リテ生スルモノナリ

註（價直トハ或財貨ノ有スル人生ノ欲望ヲ滿足シ得ル性質ニシテ人ノ認識ヲ俟チテ始メテ生スルモノナリ故ニ或財貨カ一種ノ欲望ヲ滿足シ得ル性質ヲ有スルモ之ヲ以テ直チニ價直ナリト謂フヲ得ス人カ之ヲ認識スルニアラサレハ未タ以テ價直ノ存在スルモノト爲スヲ得ス價直ハ實ニ主觀的ニ生スルモノナリ然ルニ學者或ハ價直ヲ分チテ主觀的價直ト客觀的價直ノ二ト爲スアリ其ノ意ニ謂ラク客觀的價直ハ世人一般ノ認メテ以テ價直アリト爲スモノニシテ主觀的價直ハ或ル人ニ限リ價直アリト認ムルモノナリト此論敢テ非難ス可キニアラスト雖モ價直ヲ生スルハ何レモ人ノ認識ニ因ルハ一ナリ而シテ其認識ノ主觀的ニ成ルモ亦一ナリ何ソ其人數ノ多少ヲ論セム想フニ論者ハ主觀的ヲフ文字ノ意義ヲ一般的ト特別的トニ分ツカ如シ注意セサル可カラス譬ニ猫ニ小判ト曰フカ如ク如何ニ高價ノ器物モ野蕃人中ニハ之ヲ需要スルモノナキハ彼等ノ主觀的認識ナキカ故ナリ故ニ價値ハ人ニ因リテ異ナルト同時ニ人ヲ離レテ存在スルコトナシ

人類ノ主觀的認識ハ種々ノ財貨ニ對シ相異ナルコト種々ノ財貨カ人ノ欲望ヲ滿足セシムルノ程度大ニ異ナルト同樣ナルヲ以テ價直モ亦種々ノ財貨ニ付キ相異ナラサルヲ得ス故ニ種々ノ財貨ニ附着スル所ノ性質ヲ主觀的ニ精査比較シテ始メテ眞正ノ價直ナルモノヲ知ルヘキナリ

價直ヲ分テ二ト爲ス即チ

第一、利用價直

第二、交換價直

是ナリ

第一、利用價直

註　利用價直ハ一ニ之ヲ効用價値又ハ使用價値ト曰フ

利用價直トハ一種ノ財貨カ直接ニ人類ノ利用ニ適スル性質ニシテ財貨ノ所有者若クハ之ヲ所有セント欲スル者自身或ハ社會一般カ此種ノ財貨カ其ノ欲望ヲ滿スニ足ルヲ認ムルニ因リテ生スルモノナリ

註　利用價直トハ或財貨カ直接ニ人ノ利用ニ適スル性質ニシテ或人若クハ社會一般ニ認メラレタルモノヲ曰フ例ヘハ餓エタル時ノ欲望ヲ滿ス性質ヲ有スルモノハ食物ニシテ此食物カ利用價直ヲ有スルカ如キ是ナリ

此利用價直ヲ更ニ細別シテ二ト爲ス即チ

(甲)　具象的利用價直

(乙)　抽象的利用價直

是ナリ)

(甲)　具象的利用價直(一ニ之ヲ特別的利用價直ト曰フ)

具象的利用價直トハ或人ニ特別ニシテ且ツ直接ノ利用價直ナリ即チ財貨ノ所有者若クハ之ヲ所有セント欲スル者カ或種類ノ財貨又ハ或一定ノ時ニ際シ其ノ一定ノ分量カ自己ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルヲ認ムルニ因リテ成立スルモノナリ

註　例ヘハ非常ニ渴シタル時湯茶ヲ求ムルノ暇ナク之ヨリモ容易ニ得ラルヘキ冷水アル時ハ先ツ其冷水ヲ求ムルコト普通ノ人情ナルヘシ此場合ニ於ケル冷水ハ即チ具象的利用價直ヲ有スルモノナリ何トナレハ元來冷水ハ之ヲ求メタル人ニ取リテ平素ハ何等ノ價直ヲモ有セサルモノナルヘキモ或一定ノ場合ニ限リテハ特別ノ價ヲ有スヘケレハナリ又場合ニ依リテハ或貨物ノ一定ノ分量カ其人ノ欲望ヲ滿スコトアリ例ヘハ「アンチピリン」ノ或一定ノ分量ハ之ヲ服スレハ自己ノ發熱ヲ解却スルコトヲ得ヘキヲ知リ其分量ノ「アンチピリン」ヲ得テ之ヲ服スル場合ノ如キハ

一定ノ分量ノ「アンチピリン」カ一定ノ場合ニ於テ具象的利用價直ヲ有スルモノナリ

(乙) 抽象的利用價直(一ニ之ヲ一般的利用價直ト曰フ)

抽象的利用價直トハ一種ノ財貨カ其ノ性質上人類一般ノ或望欲ヲ滿スニ適當ナルヲ世人一般ニ認メラルヽニ因リテ成立スルモノナリ

註 水ノ渴ヲ醫シ「アンチピリン」ノ解熱劑タルコトヲ世人一般カ認識スルコトアランカ玆ニ二者ノ一般的利用價直生スルナリ但世人一般ノ迷想ヨリ發スル認識ハ抽象的利用價直ヲ生セス

古物骨董品等カ偶々二三ノ人ノ間ニ於テ如何ニ欲望セラルヽコトアルモ未タ世人一般カ之ヲ珍重セサル以上ハ之ヲ抽象的利用價直ノミヲ有スル財貨ト看做スヘク之ヲ一般的利用價直ヲ有スルモノト稱スルヲ得ス而シテ具象的利用價直ノ外ニ他ノ性質ヲ有セサルモノハ之ヲ交換的價直ヲ有セサルモノト爲サヽルヲ得ス

之ヲ要スルニ抽象的利用價直ハ一般的ノモノニシテ具象的利用價直ハ特スルヨリモ反テ辨濟期日ヲ延長スルカ又ハ債權ノ幾分ヲ減少シテモ一時ニ辨濟ヲ受クルノ優レルコトアリ己ニ債權者債務者ニ於テ利益トナル以上ハ亦社會ノ利益ナルコトハ云フヲ俟タサルノミナラス元來破產處分ハ一種ノ訴ニシテ而シテ世ニ訴ノナカラシメントスルハ立法者ノ望ム處ナレハ此協諧契約ハ訴訟ヲ減少スルコトアリテ社會ヲ利スルコト多シト云フヘシ去レトモ協諧契約ヲ猥リニ許ストキハ弊害ノ生スルコトアリ即チ數回破產ヲ爲シ其都度協諧契約ヲ爲シ其際財產ヲ藏匿シ資產ヲ增サントシ反テ破產ヲ以テ自己ノ蓄財ノ用ニ供スルコトニ至ルヘシ故ニ法律ハ其許否ニ關シ多少ノ制限ヲ爲シ以テ弊害ノ生センコトヲ防キタリ

第一節 協諧契約ノ申込

法律ハ協諧契約ヲ爲スニハ破產者ヨリ之カ申込ヲ爲サシムルコトヽナシ第千三十八條ニ於テ其申込ヲ爲スコトニ付テノ制限即チ條件ヲ規定セリ

第一 破產者ハ法律上ノ義務ヲ履行シタルモノナルコトヲ要ス

法律上ノ義務トハ例ヘハ支拂停止ヲ爲シタルトキ其届出ヲ爲シ且届出ト共ニ

貸借對照表及ヒ商業帳簿ヲ出サシムル等ノ義務ヲ云フ而シテ茲ニハ單ニ法律上ノ義務トアルヲ以テ其義務ハ破産決定以後ニ在テ盡スヘキ義務ノミナラス其以前ニ在リテ尚ホ盡スヘキ義務ヲモ包含ス例ヘハ商人カ帳簿ヲ記入スルニモ其記入ノ方法亦正整ナラサルヘカラサル義務ノ如キモ包含スルモノトス其他第九百四十條第九百九十一條第千十二條第千三十五條ヲ參照スヘシ

第二　破産者ハ有罪破産ノ宣告ヲ受ケサルコトヲ要ス

罪過アルモノハ協諧契約ノ恩典ヲ受クルニ足ラサルヲ以テナリ

第三　破産者ハ有罪破産ノ審問中ニアラサルヲ要ス

此ノ審問中ニアルトキハ協諧契約ハ之ヲ中止セサルヘカラス此中止ハ債權者ヲシテ審問ノ結果ニ付キ破産者ノ業務ニ於ケル眞實ノ狀況ヲ明知セシムルノ趣意ニ基キタルモノニシテ例ヘハ當初其事件ニ關シ少シモ疑ヲ挿マサル詐欺ヲ發見シタル塲合ノ如キ是レナリ但審問落着ノ上無罪トナリタルトキハ協諧契約ヲ締結シ得ヘキコト論ヲ俟タス

第四　破産主任官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

凡ソ破産主任官ハ破産者ノ行爲ニ付キ詳知シ居ルモノナレハ果シテ破産者カ右述ヘタル如キ條件ヲ欠キタル處アルヤ否ヤヲ知ルノミナラス協諧契約申立ニハ債權者ニ對シテ辨濟スヘキ方法等ヲ書スヘキモノニシテ其方法カ適當ニシテ破産者カ實行シ得ルヤ否ヤヲ調査スルノ便利ヲ與フルモノナリ故ニ破産主任官ニ於テ其申立ヲ相當ナリトスルトキニ限リ協諧契約ハ之ヲ許スヘキモノトセリ但シ破産主任官カ之ヲ認可セサルトキハ即時抗告ヲ爲シ得ヘキハ論ヲ俟タス

第五　協諧契約提供ノ日時ハ調査期日ト第一債權者集會期日トノ間ニ於テセサルヘカラス

協諧契約ハ破産手續ヲ止ムルノ目的ニ出ツルモノナレハ其提供ハ早ク之ヲ爲ササルヘカラスト雖モ貸方借方ノ關係明瞭トナリタル後ニアラサレハ其契約申立ノ當否ヲ判斷スルヲ得ス故ニ調査會ヨリ四週間後ニ開クヘキ第一債權者集會ニ於テ提出スルモノトセリ去レトモ其第一集會ニ之ヲ提供スル能ハサリシ十分ノ理由アルトキハ例外トシテ其後ノ集會ニ於テ提供シ得ヘキナリ

第六　提供ハ一回ニ限ル

之ヲ一回ニ限リタルハ破產者ニ於テ眞實ニ自己ノ盡シ得ヘキ程度ヲ計リ提供ヲ爲サシメンカ爲メナリ若シ之ヲ度々爲スヲ得ルモノトセハ肆ニ自己ノ利益ナルコトヲ申立テ其許可ヲ得サルニ至リ始メテ利益ヲ減少シテ申立ツル等債權者ノ意向ヲトシテ機ニ投セントスルカ如キ弊アレハナリ

第七　第一債權者集會ノ廿日前ニ於テ爲サヽルヘカラス

是レ債權者ヲシテ協諧契約ヲ承諾セシムルニ付キ取調ヲ爲シ以テ利害ニ就テ考量ヲ爲サシメ又破產主任官ヲシテ其提供ニ認可ヲ與フヘキヤ否ニ付キ審査スヘキ時間ヲ與ヘンカ爲メナリ故ニ協諧契約ヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展覽ニ供シ又ハ其旨ノ公告ヲ爲サヽルヘカラサルナリ

第二節　協諧契約ノ承諾

債權者ニ於テ協諧契約ノ提供ヲ承諾スルニハ第千三十九條ニ規定シタル議決ノ方法ニヨリ人員ト債權額ノ多數ニヨリ決セサルヘカラス即チ人員ハ出席シタル債權者ノ過半數ニシテ其過半數ハ議決權アル總債權額ノ四分ノ三以上ニ

達スルヲ要ス故ニ人員ハ出席員ノ過半數ニ滿ツルヲ以テ足ルトスルモ債權額ハ出席ト欠席トヲ問ハス其總債權ノ四分ノ三以上ナラサルヘカラス然シテ其議決ノ結果ハ左ノ三ケノ場合ヲ出ラス

一　兩多數共ニ成立セサルトキハ協諧契約棄却サルヽコト明ナリ

二　兩個共ニ多數ニ達スルトキハ協諧契約成立スルコト明ナリ

三　兩個中一ノ多數ヲ得タルトキ即チ債權額ノ多數若クハ人員ノ多數ヲ得タルトキ　此場合ニハ佛國、白國ノ商法ニ於テハ更ラニ會議ヲ二十日以後ニ開キ再ヒ之ヲ議決スヘキコトヽセリ(佛第九百九十五條、白第九十九條)然レトモ我商法中ニハ別ニ此ノ如キ特別ノ規定ナキヲ以テ若シ一回ニテモ兩者ノ多數ヲ得サルトキハ協諧契約ノ提供ハ承諾セラレサルモノト謂ハサルヘカラス

抑モ法律カ協諧契約ヲ承諾スルニ右ニ述ヘタル兩個ノ多數ヲ要シタルハ要スルニ左ノ理由アルニ依ル

一　人員ニ於ケル多數ヲ要シタルハ少額ノ債權者ヲシテ多額ノ債權者ノ爲

ニ歴倒セラルヽヲ防止センカ爲ナリ

二　金額ノ多數ヲ要シタルハ多額ノ債權者カ少額ノ債權者ノ爲メニ歴倒セラルヽヲ防止センカ爲メナリ

通常ノ債權者集會ニ於テハ多數ハ出席人員ノ過半數ト其債權額ノ過半數ノ一致アレハ足レリト雖モ第千三十六條協諧契約ニ關シテハ更ラニ多數ノ一致ヲ得サルヘカラス即チ出席人員ノ過半數ト議決權アル總債權額ノ四分ノ三以上ノ債權者カ同意スルニアラサレハ其議決ノ効力アラサルナリ例ヘハ總債權額十万圓ニシテ出席人員十名ナリトセハ六名以上之ヲ承諾シ且其債權額七万五千圓ヲ超ユルニアラサレハ決議ノ効アルコトナシ是レ協諧契約ノ決議ハ債權ヲ拋棄シ又ハ之ヲ猶豫スルコトアリテ債權額ニ影響ヲ及ホスコト頗ル大ナレハナリ人員ノ多額ヲ算定スルニハ數多ノ事項ニ付キ債權者タルモノ換言セハ種々ノ債權ヲ併有スル債權者ト雖モ之ヲ一人ト見做スヘキヤ否ヤノ問題アリ佛、白等ノ學者ハ債權調査ノ前ニアリテハ之ヲ一人ト見做スヘキモ債權調査ノ後ニアリテハ種々ノ債權ヲ併有セルモノノ各債權ニ付テ一個ノ投票權ヲ有ス

ルモノナリト云ヘリ其理由トスル處ニ曰ク債權調査制ニ在リテハ人員ト債權トノ兩半數ニヨリテ決スルモノナレハ別々ニ區別スルノ必要ナシト雖モ債權ハ債權ノ調査ニ依リテ確定シ投票權モ茲ニ初メテ確定スルモノナレハ其後ハ契約ヲ以テスルモ動カスヘカラス從テ投票權モ各債權ニ付テ存セサルヘカラス」ト此理論ノ結果ハ債權調査アリテ後贈與其他ノ事故ニ依リ債權ヲ分割シタル場合ニ於テモ尙ホ債權ハ一個ノモノトシテ投票セサルヘカラサルヘシ果シテ然ラハ其一個ノ債權ヲ分有シタル數ノ中何人カ投票權ヲ有スルヤ之ヲ知ルハ甚タ困難ナリ故ニ予ハ此ノ如キ議論アルニ關セス債權調査ノ前後ヲ問ハス皆一人ハ一人トシテ算定スヘキヲ至當ナリト信ス然レトモ前説モ亦理由ナキニアラサルヘケレハ參考トシテ附言シタル所以ナリ

決議ノ結果前述ノ兩個ノ多數ヲ得タリトスルモ協諧契約ハ未タ全ク確定シタルニアラズ此決議ニ不服ナルモノハ十日以内ニ於テ破産裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スヲ得此申立ヲ爲シ得ヘキモノハ破産管財人當初ヨリ議決權ヲ有スル債權者及ヒ集會ニ至リ確定シタル債權者ニシテ且其申立ニハ理由ヲ附セサルヘ

カラス其理由ヲ附スヘキコトハ破産者カ法律上ノ義務ヲ履行サルヘカラサルモノナリトカ或ハ議決ニ詐欺若クハ不法ノ點アリタリトカノ理由ヲ云フ(第一〇三九條第二項)

裁判所ハ其理由及ヒ破産主任官ノ演述ヲ聞キ認可又ハ棄却ノ決定ヲ爲スヘキカ故ニ協諧契約ハ債權者ノ議決ヲ以テ承諾ヲ與フルモ尙ホ裁判所ノ認可ヲ得ルニアラスンハ有効トナスヲ得ス但其認可ヲ得タル後ト雖モ協諧契約ニ詐欺若クハ不正ノ點アリト主張スル塲合ニハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシ此塲合ニハ協諧契約ノ決議カ根本ヨリ無効ナルコトヲ主張スルモノナレハ何時異議ヲ申立ツルモ差支ナシ(第一〇四二條第二項第一〇四一條第三項)

第三節　協諧契約ノ認可及ヒ棄却

協諧契約ハ之ヲ承諾セサル少數債權者ヲシテ强テ服從セシムルモノニシテ普通契約ノ原則ニ反ス故ニ協諧契約ハ之ヲシテ弊害ナカラシメンニハ債權者ノ議決アルモ裁判所ノ認可ナキトキニハ其議決ヲシテ有効ナラシメサルニアリ此認可ハ破産者又ハ債權者ニ於テ請求スルヲ得ヘシ是レ各利害ノ關係ヲ有スレハナリ而シテ裁判所カ協諧契約ニ認可ヲ與フルハ異議申立ノ期間滿了後ニシテ破産主任官ノ演述ヲ聞キ決定ヲ以テ爲ス此決定ニ對シテハ債權者又ハ異議申立ノ權アルモノヨリ七日内ニ抗告ヲ爲スヲ得(第一〇四二條)然レトモ如何ナルモノハ認可セラレ如何ナルモノハ棄却セラルヽヤト云フニ第千四十一條ハ左ノ塲合ニ於テ之ヲ棄却スヘキモノト規定シ其標準ヲ示セリ

第一　協諧契約ノ提供ノ條件ヲ欠キ及ヒ其方法ニ違背シタルトキ

第二　協諧契約ニヨリ或債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ

第三　協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

第四　協諧契約カ公益ニ觸ルヽトキ

此ノ如ク裁判所ハ協諧契約ヲ拒否スルノ全權ヲ有スト雖モ裁判所ハ協諧契約ニ變更ヲ加フルノ權ヲ有セス蓋シ協諧契約ハ一ノ契約ナルヲ以テ當事者兩造ノ承諾スルニアラサレハ變更廢止スル能ハス此塲合ニ所謂當事者トハ一方ハ破産者ニシテ他ノ一方ハ債權者全躰ナリトス

協諧契約ノ方式ヲ欠キタル爲メニ認可セラレサルトキハ協諧契約ハ再ヒ開始スルヲ得ヘキヤ此點ニ付テハ法律ハ何等ノ規定ヲ爲サスト雖モ佛蘭西白耳義ノ多數ノ學者ノ說ニ依レハ再開ヲ否認スルヲ以テ法律ノ精神ニ合セルモノトセリ其理由トスル處ヲ見ルニ法律ノ精神ハ破產處分ヲ迅速ナラシムルニアリ故ニ其迅速ヲ要スルニモ不拘無効若クハ有害ノ所爲ヲ再ヒ開始スルヲ許サスト然レトモ法律ハ明文ナキニヨリ之ヲ察スレハ絕對ニ開始スルコトヲ得スト斷定スルハ恐ラク過酷ニ失スルモノヽ如シ抑モ協諧契約ノ締結ハ破產者ノ爲メニ利益ナルト同時ニ債權ノ利益ニ關スルカ故ニ其許否如何ハ公益又ハ一般ノ利益ニ反セサル以上ハ其狀況ニ依リ之ヲ裁判スル專斷ヲ裁判所ニ付與スルモノナリト解スルヲ相當ト信ス

第四節　協諧契約ノ効果

協諧契約ノ認可セラレタルトキハ如何ナル効果ヲ生スルヤ之レ第千四十條ノ規定スル處ナリ既ニ契約確定スル以上ハ最早破產者ノ財產處分ヲ禁スル必要ナク其財產ノ管理處分ヲ爲スコトヲ破產者ニ許シ管財人ハ直チニ其職務ヲ止メ且執務中ニ係ル一切ノ計算ヲ爲サヽル可カラス而シテ破產者ハ協諧契約確定スレハ全ク破產前ノ狀況ニ復スヘキヲ以テ其財產ハ凡テ營業ニ供スル爲メ同人ニ還付セサルヘラス而シテ破產者ハ協諧契約ニヨリ其處分及ヒ管理ニ付キ特別ノ約定ヲ爲シタルトキハ此約定ニ從ハサルヘカラス協諧契約ノ履行ハ恰モ裁判ニ依リ義務ヲ執行スルカ如ク裁判所之ヲ看守セサルヘカラス其履行ニ付テハ破產主任官ノ指揮ニ從フヲ要ス故ニ主任官ハ絕エス破產者ノ契約ヲ履行スルヤ否ヤヲ看守シ又ハ之ヲ促シ又ハ賣却シ又ハ差押ヲ爲シ又ハ金錢ヲ支拂フニ主任官ヲ經テ支拂フ等其監督ニ屬スル事柄ハ之ヲ爲サヽルヘカラス若シ破產者ニ於テ協諧契約ノ履行ヲ怠リタルトキハ直チニ破產手續ヲ再施セサルヘカラス

第五節　破產手續ノ再施

破產手續ヲ再施シ得ヘキ場合ハ要スルニ協諧契約ノ消滅ニ歸シタル場合ニシテ債務者ハ協諧契約前ノ狀況ニ復メルモノナリ而シテ之ヲ再施スル場合ハ協諧契約成立前ノ債權者ノミカ圍躰ヲ組成スルモノニアラスシテ其以後ニ債權

ヲ得タルモノモ亦其團躰ニ加入スルモノトス之レ協諧契約ニヨリ債務者カ其財産ヲ自由ニ處分スル間ニ負擔シタル義務ニシテ其義務ハ舊債權者ト雖モ之ヲ承諾セサルヘカラサルモノナレハナリ第千四十四條ニ曰ク

協諧契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若シクハ取消サルヽトキ又ハ不履行ノ爲メ解除セラルヽトキハ破産手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム其再施シタル手續ニ再施マテノ間ニ債權ヲ得タル者モ參加スルヲ得

不履行ノ場合ニアリテハ協諧契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレス

トアリ右ノ如ク破産ノ手續ヲ再施スル場合ハ協諧契約ノ消滅スル場合ニシテ其場合三アリ

第一　當然消滅ノ場合

此場合ハ第千四十二條第一項ニ規定セリ曰ク

協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキハ當然消滅シ

其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

トアリ破産者カ有罪破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ協諧契約ノ提供ヲ爲スヲ得サルハ第千三十八條ノ規定スル處ナリ本條ニ協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ當然消滅ス云々トアルハ右第千三十八條ノ規定ト相照應スルモノナリ有罪破産ノ宣告ヲ受ケサルコトハ協諧契約提供ノ一條件ナルヲ以テ一旦協諧契約成立スルモ後ニ有罪破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其契約ハ當然之ヲ消滅スルモノトシ破産者カ得タル恩惠ヲ失フモノトス所謂當然消滅ト云フハ單ニ有罪破産ノ宣告ノミナラス他ニ手續ヲ要セス直チニ協諧契約消滅ストノ義ニシテ裁判ノ宣告ヲ要セス又裁判所ニ起訴ヲ要セス唯之ニ保證ヲ入レントスルモノアルトキハ關係人ニ於テ其協諧契約ヲ排斥スルニ止マルヘシ又若シ有罪破産ナルヤ否ヤニ付キ審問中ナルトキハ果シテ有罪破産ナルヤ否ヤ確定セサルニ付キ其落着マテ協諧契約ヲ續行セスシテ中止シ免訴又ハ無罪ノ判決ヲ得タルトキハ之ヲ續行シ有罪破産アリタルトキハ之ヲ無効トスヘキナリ

第二　異議ノ申立ニ依リ取消サルヽ場合

此場合ハ第千四十一條第三項ニ所謂協議契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキトアル場合ニシテ第千四十二條第二項ノ規定スル處ナリ此場合ハ當然無効トナルニアラス判決ニヨリ取消サルヽモノナリ故ニ此場合ニハ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲サヽルヘカラス何トナレハ詐欺其他不正ノ方法ハ推定ヲ以テ定ムル能ハス必ス明證ヲ要スレハナリ蓋シ債權者ニシテ此ノ如キ詐欺又ハ不正ノ方法ヲ認知シタリシナラハ恐ラクハ其損失ヲ甘受シ協議契約ヲ承諾スルカ如キコトナク裁判所モ亦之ヲ認可セサリシナルヘシ是レ異議ノ申立ニ依リ取消サルヽ所以ナリ

第三　解除セラルヽ場合

破産者カ協議契約ノ履行ヲ爲サヽルトキハ其契約ハ解除セラレ破産手續ハ再施セラルヽモノトス之レ恰モ協議契約ハ破産者ニ於テ其債務ヲ履行スルコトヲ以テ條件トシテ之ヲ履行セサルトキハ解除條件トナルモノナレハナリ此不履行ヲ基トシテ契約ノ解除ヲ求ムルモノハ債權者ノ多數ニ出ツルヲ要セス債

權者各自ニ求ムルヲ得ヘシ抑モ協議契約締結後ハ債權者集會ナルモノ既ニ存在セス換言セハ債權者ノ連結ナルモ解除セラレタルヲ以テ各債權者ハ各自ノ名義ヲ以テ其權利ノ實行ヲ爲スコトニ於テ獨立ノモノタレハナリ然レトモ協議契約ニシテ既ニ解除セラレタル以上ハ其効果ハ凡テノ債權者ニ及フモノトス何トナレハ協議契約ノ履行ハ不可分的ノモノナレハナリ若シ然ラストセハ或債權者ノ爲メニ利益ニシテ他ノ債權者ニ不利益ヲ來シ債權者間ニ均一平等ヲ期スヘカラスシテ法律ノ精神ニ背反スヘキナリ

協議契約ヲ締結スルニ當リ保證人ヲ以テ其履行ヲ擔保セシムルコトアリ保證人ハ其履行ヲ擔保スルモノナルカ故ニ債務者カ義務ヲ履行セサルトキハ保證人ハ之カ履行ヲ爲サヽルヘカラス之レ實ニ保證ノ目的ニシテ保證人其義務ヲ免カルヘキニアラサルハ論ナキモ協議契約認可セラレス又ハ後日消滅シ又ハ棄却セラレタル場合ニ於テハ主タル債務者ノ任務ハ存在セサルヲ以テ保證ノ義務モ從テ免カルヽモノナリ

以上述フル如ク協議契約消滅シ其結果トシテ破産手續ハ再施セラルヽモノニ

シテ債務者ハ恰モ協諧契約ナカリシ前ノ狀況ニ復シ其間ニ於テ契約成立セサルト同一ノ適用ヲ生シ債務者ハ一旦得タル財產處分權ヲ失ヒ破產開始ノ場合ト同一ノ手續方法ヲ行ハサルヘカラス故ニ必要ト認メタルトキハ新ニ財產目錄貸借對照表ヲ作成シ之ニ新債權者ヲシテ其債權ヲ屆出テ之ヲ證明セシムル等新ニ調査期日ヲ設ケサルヘカラス

債務者ニ於テ獨リ協諧契約ノ履行ヲ爲サルノミナラス或ハ支拂ヲ停止スルコトアリト雖モ破產手續ヲ再施スレハ足レリ必スシモ更ラニ破產宣告ヲ爲スヲ要セス何トナレハ協諧契約ノ存スル間ハ債務者ハ復權ヲ得タルニアラス依然トシテ破產宣告中即チ破產ノ狀態中ニアレハナリ

第九章　配當

破產處分終局ノ目的ハ財產ノ配當ニアリ此配當ニ付テハ種々ノ手續ヲ要ス

第一節　配當ノ順序

配當ノ順序ハ第千四十五條ニ規定スル處ニシテ

第一ニ配當ヲ受クヘキ債權ハ第千三十二條ニ規定セル債權ナリ即チ

一　裁判費用其他被產手續上ノ費用

二　公ノ手數料及ヒ諸稅

三　管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權

第二ニ配當ヲ受クヘキ債權ハ優先權ヲ有スル債權ナリ茲ニ優先權トハ財團配當ノ當時ニ有スル優先權ニシテ彼ノ別除權ヲ行フタルモノニアラス蓋シ優先權ヲ有スル債權ハ別除權ヲ有スト雖モ之ヲ實行スルト否トハ隨意ニシテ實行セサルモ優先權ヲ失フノ結果ヲ生スルモノニアラス

第三順位ニ來ルモノハ普通ノ債權者ナリ普通ノ債權者ハ特種ノ債權及ヒ優先權アルモノニ支拂フタル殘餘ノ財團ヲ平等ノ割合ニ配當ヲ受クヘキモノナリ然ルニ茲ニ一ノ例外トナルヘキモノハ破產者カ資本ヲ分テ數多ノ營業ヲ爲ス場合是レナリ此場合ハ債權者ハ重ニ其營業ヲノミ目的トシ其營業ノ資本ニ信用ヲ措キタルモノナレハ其資本中ヨリ支拂ヲ受ケ尙ホ不足ナルトキハ他ノ資本中ヨリ支拂ヲ受クヘキモノトス(第一〇四四條第二項)

抑債務者ノ總財產ハ債權者ノ共同擔保タルヘキモノナレハ債務者カ資本ヲ分

テ別箇ノ營業ヲ爲レ其別箇ノ營業ニ就キ取引ヲ爲シ即チ其營業ニ對スル資本ヲ目的トシ以テ之ニ信用ヲ措キ取引シタルモノト見做シ法律ハ其營業ニ對シテ優先權ヲ有セシメタル所以ナリ(第一〇四三條)

第二節　配當ノ手續

舊身代限法ニ依レハ配當ハ破產ノ財產ヲ換價シテ普通ニ一回之ヲ爲スヘキ者トシ其手續甚タ簡單ナリシ從テ財產ノ脫漏モ容易ニ生スルヲ得タリシ然ルニ新法典ハ第千〇四十六條ヲ以テ細密ナル規定ヲ設ケ配當度數モ亦數回トセリ今之ヲ細則シテ說明セハ左ノ如シ

第一　財團ノ配當ハ普通ノ調查ヲ終リタル後ニ爲サヽルヘカラス

是レ債權ハ調查會ニ於テ確定シ配當ハ通常ハ確定シタル債權ニ對シ爲サヽルヘカラサレハナリ

第二　配當ハ配當ニ足ルヘキ財團アルトキニ之ヲ爲サヽルヘカラス

此規定ハ破產者及ヒ債權者共ニ利益ナルヘキ規定ニシテ之ニ依リテ財團ノ配當ヲ增加セシムルコトアルヘシ何トナレハ破產者ハ其財團ヲ賣却スルモ後日賣却セハ大ニ利益アルコトアリ此ノ如キ場合ニ時期ヲ俟テ賣却スルハ互ニ利益ナレハナリ而シテ僅少ナル財團ノ配當ヲ爲ススハ徒ラニ手數ノミ增加シ債權者モ亦利益アルコトナカルヘキヲ以テ配當ヲ爲スニハ之ヲ爲スニ足ルヘキ金額アルヲ要セルナリ然シテ其配當ヲ爲スニ足ルヘキ財團アルヤ否ヤヲ見ルハ破產主任官ノ職權ニアリトス

第三　配當ハ管財人カ調成ノ破產主任官ノ認可ヲ受ケ且其署名アル配當案ニ依リテ爲スヲ要ス

是レ專ラ各債權ノ正當ナルヤ否ヤ配當案ニ割合ノ異算ナキヤ否ヤ又配當ヲ爲スニ足ルヘキ金額ノ存スルヤ否ヤヲ見ルノ必要アレハナリ而シテ之ニ破產主任官ノ認可及ヒ署名ヲ要スルハ破產主任官カ其配當案ヲ正當ト認メタルモノナラサルヘカラサル爲メナレハナリ

第四　配當案ハ之ヲ公告シテ公衆ノ便覽ニ供スルコトヲ要ス

債權者ハ配當案ノ便覽ニ依リ自己ノ受クヘキ配當額ヲ保護シ得ヘク又管財人ノ計算ニ異算アルコトヲ發見スルトキハ之ヲ裁判所ニ申立ツルノ保證ヲ得セ

レメンカ爲メナリ其申立期間ハ十四日内ナリトス

第四　配當金ヲ支拂フヘキ場合ニハ不正ナル支拂ヲ防キ及ヒ正當ナル受取證ヲ保存スル爲メ左ノ手續ヲ要ス(第一〇四七條)

(一)配當金ノ支拂ハ配當案ニ對シテ異議ノ存セサル場合又ハ其異議ノ落着後ニ於テ爲スヘキモノナリ

(二)債權者ハ債權設定ノ證書ヲ提出シ之ニ毎回支拂金額ノ記入ヲ受ケ又ハ債權證書ノ提出シ能ハサルトキハ破產主任官ノ認可ヲ受ケ債權表ニ支拂ノ記入ヲ受ケサルヘカラス

(三)債權者ハ常ニ配當案ニ受取ヲ記入セサルヘカラス

第三節　配當手續ノ終結

財產ノ換價又ハ配當ヲ終リタルトキハ破產處分ノ必要ハ消滅スルモノナレハ債權者集會ヲ開キ此集會ニテ管財人ハ結局ノ計算ヲ爲シ終局決定ノ方法ヲ以テ破產處分ヲ終了ス(第一〇四八條)管財人ノ計算ニ對シテ多數ノ決議ヲ以テ異議ヲ申立テタルトキハ破產裁判所之ヲ決定シ其計算ヲ不當トセハ之ヲ改正セ

益アルコトヲ要セス唯其目的カ營利ニ在ルコトヲ要スルノミ

第三　自己ノ名ヲ以テスルコト

商行爲ヲ爲ススヲ業トスルモ自己ノ名ヲ以テセサル者ハ商人ニ非ス例ヘハ商家ノ手代番頭ノ如キ其主人ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲ス者ハ此勞務ニ因ル報酬ヲ以テ我收入ノ淵源ト爲スヘシト雖モ以テ商人ト謂フ可カラス商人ハ寧ロ其商家ノ主人ナリ又自己ノ名ヲ以テ商業ヲ爲ス者ハ必スシモ自ラ働カサルヘカラサルニ非ス其名義カ自己ノ名義ナルコト即自己カ其營業ノ主体トシテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フヲ謂フナリ故ニ法人ノ如キ又ハ無能力者ノ如キ自ラ行爲ヲ爲スコト能ハサル者ト雖モ其法定代理人ニ依リテ商業ヲ營ムトキハ亦タ商人タルナリ又自己ノ名義ニ於テ商行爲ヲ爲スハ必スシモ自己ノ計算ニ於テスルモノニ非ス即チ實際ノ損益ハ他人ニ歸スルモ第三者ニ對シテハ自己カ其行爲ノ當事者トシテ權利ヲ得義務ヲ負フ地位ニ在レハ商人タルニ妨ケナキナリ

以上ノ要件ヲ備フルトキハ則チ商人タリ商人タルニ自然人ナルト法人ナルトハ問フ所ニ非ス故ニ商事會社ハ當然ニ商人タルナリ現行商法第十七條ニ於テ

商人ニ關スル規定ヲ商事會社ニモ適用スヘキコトヲ定メタルハ冗文ナリトシテ新商法ニ於テハ此規定ハ削除セラレタリ

第二節　商業權能

凡ソ人ハ私權ヲ享有スルハ國法上ノ原則ナリト雖モ或ハ人ノ身分ニ由リテ商業ヲ爲スコトヲ得サルアリ或ハ行爲ノ性質ニ由リテ一般ニ又ハ特定ノ人ニ其營業ヲ制限スルコトアリ

一　身分ニ關スル制限

身分ニ由リ商業ヲ制限セラルヽ第一ハ外國人ナリ現行條約ニ依レハ外國人ハ居留地以外ニ於テ商業ニ從事スルコトヲ得サルナリ但新條約ニ於テハ此制限ハ削除セラレタリ

第二ハ官吏並其家族ナリ官吏並其家族ハ服務紀律第十一條及第十七條ニ由リ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非スンハ商業ヲ營ムコトヲ得ス此禁制ヲ犯シタル者ハ刑法第二百七十五條ニ依リ處分セラル

第三ハ支配人(第三二條)代理商(第三八條)合名會社ノ社員(第六〇條)合資會社ノ社員(第一〇五條)ニ依リ第六〇條ノ規定ノ準用アリ)株式會社ノ取締役(第一七五條)等ノ如キ法律上一定ノ代理權アル者ニシテ其本人ノ許諾アルニ非サレハ一定ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ商法ハ單ニ一定ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得スト規定スルカ故ニ自ラ商行爲ヲ爲スコトヲノミ禁シテ代理者ニ由リ商業ヲ營ムハ其禁スル所ニ非サルヤノ疑アリト雖モ元來此禁制ハ行爲能力ヲ制限セルモノニ非スシテ其本人ノ商業上ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ設ケタル規定ナルヲ以テ自己カ直接ニ之ヲ爲スト代理人ニ由リテ之ヲ爲ストヲ問ハス自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲スコトヲ禁シタルモノナレハ商業ヲ營ムコトヲ得サルハ明カナリ是次節ニ述フヘキ無能力者ト異ナル所以ナリ

以上身分ニ由ル商業禁止ヲ犯シタル場合ニ於テハ法律上一定ノ制裁アリト雖モ其行爲ハ有効ニシテ商行爲ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘシ是能力ノ欠缺ヲ理由トセル規定ニ非ス又必スシモ社會ノ公安ニ關スル規定ニ非サルカ爲メナリ現行商法第十五條第二項ニ於テハ官吏ノ反禁行爲ノ無効ナラサルコトヲ明言セリト雖モ外國人ニ關シテハ規定スル所ナシ而シテ之ヲ同條第一項ノ所謂

「法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者」ナリト謂フコトヲ得サルナリ

二　行爲ニ關スル制限

或營業ヲ營ムニハ其行爲ノ性質ニ因リ法律上ノ制限アルモノアリ法律ノ制限ニハ或ハ絶對ニ之ヲ禁スルモノアリ特定ノ人ニ之ヲ禁スルモノアリ又或ハ一定ノ條件ノ下ニ制限スルモノアリ

此種ニ屬スル第一ハ政府ノ認可又ハ免許ヲ得テ始メテ營ムコトヲ得ヘキ營業ナリ此種ノ營業ハ極メテ多シ認可又ハ免許ヲ得ハ何人モ之ヲ營ムコトヲ得ヘシ

第二ハ專業ナリ或ハ政府ノ專業アリ或ハ私人ノ專業アリ專業者以外ノ者ハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第三ハ特定ノ資格ヲ備フル者ニ非サレハ營ムコトヲ得サル營業ナリ此種ノ營業ヲ營ムニハ特定ノ資格ヲ備ヘテ更ニ政府ノ免許ヲ受クルヲ通例トス例之ハ取引所仲買人ノ如キ是ナリ

第四ハ所謂ル禁制行爲ニシテ富籤賣買(刑法第二六二條)阿片烟輸入製造販賣(刑法第二三七條)人身賣買(明治五年十月二日布告)五百石以上ノ船舶ノ製造(明治十八年七月八日布告)等ノ如キ是ナリ

以上第一ヨリ第四ニ屬スル營業ハ或ハ法律上禁セラレ或ハ法律ノ規定スル一定ノ資格ヲ造リテ始メテ之ヲ營ムコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ之ニ違反シタル行爲ハ當然無効タルヘキモノナリ現行商法ハ明カニ之ヲ規定セリト雖モ是商法ニ於テ規定スヘキ問題ニアラスシテ各其法令ノ規定ニ因リテ定マルヘキモノナルヲ以テ新商法ニ於テハ現行商法第十五條ノ規定ハ全然之ヲ削除セリ

第三節　商事能力

商業權能ノ制限ヲ受ケサル者ハ皆商業ヲ營ムコトヲ得ヘシト雖モ所謂行爲能力ヲ有セサル者ハ法定代理人ニ因ルニ非サレハ自ラ商行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ行爲能力ニ關スル規定ハ民法第一編第一章第二節ニ於テ詳カニ規定セルヲ以テ更ニ商法ニ規定スルコトヲ要セサルモノ多シ故ニ新商法ニ於テハ單ニ商事ニ關シテ特別ナル規定ノミヲ掲ケタリ

民法第六條及第十五條ノ規定ニ隨ヘハ一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有スヘシ然レトモ商事ニ於テハ此規定ハ猶ホ十分ナリト云フ可カラス未成年者又ハ妻ト雖モ法定代理人又ハ夫ノ許可ヲ得テ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ヘシ而シテ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許可セルハ必スシモ會社營業ヲ許可シタルモノニ非スト雖モ會社ノ無限責任社員ハ其全財產ヲ以テ會社ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ會社ノ業務ノ執行權アリ又會社ノ代表權アルモノナリ法定代理人又ハ夫ニシテ已ニ未成年者又ハ妻ノ會社ノ無限責任社員タルコトヲ許可セル以上ハ其會社ノ營業ニ關レテハ能力アリト認メタルモノト見ルモ不當ニ非ス故ニ新商法第六條ハ之ヲ明カニ規定セリ

第四節　登記

未成年者ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス(民法第八八〇條)親權ヲ行フ父又ハ母在ラサル場合ニハ親族會ノ認許ヲ經タル後見人ノ同意アルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス(同第九二六條)又妻ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ爲スコトヲ得ス(同第一四條)而シテ此等ノ許可又ハ同意ヲ得スシテ未成年者又ハ妻ノ爲シタル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ即チ許可又ハ同意ノ有無ハ第三者ノ利害ニ關スルコト極メテ大ナルヲ以テ未成年者又ハ妻カ此等ノ條件ヲ備ヘテ商業ヲ爲サントスルトキハ之ヲ登記セシメテ第三者ヲシテ其能力ヲ疑ハサラシムルコトヲ要ス是レ商法第五條ノ規定アル所以ナリ

又後見人カ未成年者ニ代ハリテ營業ヲ爲スニハ親族會ノ認許アルコトヲ要ス(民法第九二九條)夫後見人ノ未成年者ニ代ハリテ爲ス所ノ行爲ハ代理行爲ナリ然ルニ若シ後見人カ民法第九百二十九條ノ規定ニ違反シテ親族會ノ認許ヲ得スシテ未成年者ニ代ハリテ商業ヲ爲シタル場合ニハ代理權ノ踰越ナリ故ニ此行爲ヨリ生スル義務ニ關シテハ第三者カ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由アルニ非サレハ未成年者ハ其責ニ任セス(民法第一一〇條第一〇九條)第三者ハ唯後見人ニ履行又ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルノミ(同第一一七條)故ニ後見人ノ未成年ニ代ハリテ商業ヲ營ム場合ニモ亦タ登記セシムル必要アリ(商法第七條)又親

族會ハ後見人ニ商業上ノ代理權ヲ制限スルコトヲ得ヘシト雖モ後見人カ一旦親族會ノ認許ヲ得テ未成年者ニ代リテ商業ヲ爲ストキハ其商業上一切ノ事項ニ關シテ代理權アリトセサレハ商事ノ敏活ヲ欠クノ恐アルヲ以テ商法第七條第二項ハ其代理權ニ加エタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定セリ

第五節　小商人

自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人ナリ故ニ苟クモ此定義ニ適フ者ハ大商業家ナルト小商業者ナルトヲ問ハス總テ商人ニシテ商人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノナリ然レトモ戶々ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他此ニ等シキ小商人ニハ商業登記商號商業帳簿等ノ規定ハ之ヲ適用スル必要ナシ故ニ第八條ノ規定アリ而シテ小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(施行法第七條)

備考　現行商法第七條ニ於テハ此等ノ小商人ノ取引行爲ハ之ヲ商行爲ト見スト規定セリ故ニ小商人ハ商人ニ非ス隨テ一モ商法規定ノ適用ヲ受クルコトナシ

ブル」モ同市ニ於テ之ヲ見ルコト能ハサルニ至レリト言ヘリ要スルニ一時該法典ハ世ニ傳ハラサリシト雖モ今ヤ再ヒ發見サレテ今日世ニ傳フル所ノモノニ因レハ新舊ノ二部ヨリ成リ其舊キ部分ハ之ヲ羅馬語ニテ書シ第十一世記ノ終リ第一十字軍ノ時代ニ當リ「アマルフイ」ニ於ケル彼ノ「キユリア、マリチマ」ナル特別海事裁判所ノ判決例ヨリ集錄制定シタルモノニシテ中世ノ初期ニ於ケル海商ニ付テ吾人ニ最モ豐富ナル智識ヲ與フルモノナリ其新ラシキ部分ハ十四世紀ノ末葉ヨリ始メテ慣用サレタル伊多利語ヲ以テ之ヲ書セリ然ルニ海商ハ漸ク變化シ該法典ハ漸ク其必要ヲ失ヒ十四世紀ニ於テ既ニ後ニ述ヘントスル所ノ「コンスラート」法典ヲ補充法トシテ用ヰ十七世紀ニ於テハ「コンスラート」法典ヲ全ク採用シタルカ故ニ「アマルフイアン、テーブル」ハ全ク其必要ヲ見サルニ至レリ

「ビザ」ノ法源ハ古キ海商法規中是亦重要ナルモノニ屬シ千八十一年ニ於テ既ニ成文法トシテ存在セリ而シテ順次其法域ヲ西方ニ擴メ殊ニ「マーセーユ」ニ於テ用ヰラレ十三世紀ニ於テハ進ンテ西班牙ニ於テ用ヰラレタリ然レトモ「ビザ」ノ

商權漸次衰フルニ及ヒ是レ亦「コンスラート」法典ニ壓倒サレタリ

其他地中海沿岸ノ法源トシテハ「ツラニ」ノ海法「シルサレム」ノ海事規程「マーセーユ」「モントビール」等ノ海事條例ノ如キ許多アリト雖モ皆是レ後ニ「コンスラート」法典ノ壓倒スル所トナレリ

「コンスラート」法典ハ十四世紀ノ後半殊ニ千三百七十年頃ヨリ後ニ於テ「アラゴン」王ノ命令ニヨリ「カタラン」語ヲ以テ「バーセロナ」ニ於テ編纂セルモノナリ其始メ十三世紀ノ後半ニ於テ既ニ海事慣習ト題シテ地中海近方ノ慣習法ヲ集錄シタルモノヲ基礎トシ漸次增補擴張シテ竟ニ完備セル法律書ト爲シタルモノニシテ其編纂者ノ何人タルカハ正確ニハ世ニ知ラレスト雖モ恐ラクハ「バーセロナ」ニ於ケル海事裁判所ノ一書記ノ作ナルベシト云フ是レ「ワグチル」氏等ノ明言スル所ナリ然ルニ之ニ付テハ諸國其編纂ノ名譽ヲ競ヒ諸說區々トシテ未タ決スル所ナシ例ヘバ千七百三十七年伊多利ノ「ベニス」ニ於テ該法典ニ註釋ヲ加ヘテ出版セル「カサレギス」ノ說及ヒ千八百八年該法典ヲ佛譯シテ出版セル「ブーシエー」ノ說ニヨレバ西班牙ノ編纂ナリト云ヒ「アズニ」ノ說ニヨレバ「ピザ」人カ商業繁盛ノ際編纂セルモノナリト云ヒ「グローチウス」及ヒ「マーカーダス」ノ如キハ各其著書ニ於テ該法典ハ十字軍ノ時ニ際シテ希臘、日耳曼、佛蘭西、西班牙「シリヤ」「サイプラス」「バレアレス」及ヒ「ベニス」「ゲヌア」其和諸國等ノ諸帝王カ下シタル海事勅令ヲ集錄シテ之レヨリ編纂セルモノナリト云ヘリ要スルニ其編纂者ノ何人タルヲ問ハス其法典ノ實質ヨリ考フレハ之カ編纂者ハ獨リ地中海沿岸ノ海上法規ニ付テ知識ヲ有セシノミナラス西班牙ノ沿岸幷ニ佛國ノ西海岸ノ海上規定ニ付テモ亦能ク了得セル所アルモノノ如シ而シテ海上法規ノ各部門ノ研究ニ付テハ未タ十分至レリト云フコトヲ得サルモ概シテ言ヘハ其包括スル所極メテ廣フシテ殆ント各場合ヲ網羅セスト云フコトナシ故ニ爾後諸國ノ立法者ハ爭フテ之ヲ取テ其立法ノ資ニ供シ各地ノ海事裁判所ハ之ヲ採テ其判決ノ根據トセリ是レ即チ前述セル如ク地中海沿岸ノ各法源ヲ一時皆壓倒シタル所以ナリ而シテ該法典ハ現今既ニ「カスチリアン」伊、獨、佛語ニ何レモ皆飜譯アリ而シテ之カ內容ヲ列擧スレハ海事裁判所、海漕業、船舶ノ所有權及ヒ艤裝、船舶所有者及ヒ船長ノ權利義務、運送賃、海員ノ權利義務、其取締、救援、救助、艤裝、海損、投貨、戰時ニ於ケ

ル中立國及ヒ戰爭國船舶ノ責任捕獲ニ關スル規定等ヲ包含セリ就中捕獲ニ關スル部分ハ國際法上著名ナリトス

以上ハ即チ地中海地方ノ法源ナリトス左ニ北海地方ノ法源ニ付テ之ヲ述フヘシ北海地方ニ於テハ「スカンヂナビヤ」「フランク」「ハンス」ノ三大法域ニ分カレ其法源モ亦各異ナレリ「スカンヂナビヤ」法源ハ三者中最モ古シト雖モ法規ノ性質最モ特有ノ點ニ乏シク漸次他國ノ法源ニ壓倒セラレ隨テ後世ノ海法ニ影響スル所尠カラス而シテ法規ノ發生ハ此地方ニ於テモ其初メハ航海業者ノ組合組織ノ中ニ基ケリ即チ其組合團体ノ中ニ普通法ヨリ分離シタル特別法規ノ發生ヲ馴致シ當時ハ之ヲ記錄シタル確定法文トシテ存セシモノ少ナカリシカ故ニ後世ヘ傳ヘタル材料ハ隨テ少ナカリシト雖モ海商法規ノ第一源ハ實ニ此等組合團体ノ法覺ヨリ發セシナリ爾後海商交通益々頻繁トナルニ從ヒ簡短ナリシモノハ愈々複雜トナリ特別法規ハ益々增殖セリ之ト同時ニ當時ノ交通觀念ニ最モ適合シタル法規ハ益々其法域ヲ擴張シテ他國ニ影響シタリ然レトモ當時ノ法律慣用司法ノ仕方ハ現時ノモノト非常ニ異ナリ其差異ハ地中海方面ヨリ

モ西北海地方ニ於テ殊ニ甚タシトス即チ現時ニアリテハ裁判官ヲ羈束スル所ノ成文ノ法律アリテ裁判官ハ法學ノ助ケヲ借リテ之ヲ了得シ以テ之ヲ適用スルアルノミ然ルニ當時ニアリテハ獨リ訴訟手續ニ關スル規定ノミナラス實体法規ニ關シテモ亦裁判官ノ法律自覺ニ依リテ之ヲ決セリ故ニ判官ハ先例ニ依ルコトヲ好マス先ツ第一次ニ於テ自己ノ法覺ニ依リテ判斷シ唯稍々疑ハシキ場合等ニ於テ先例ヲ參照シタルノミ故ニ法律記錄ノ存スルアルモ唯其法覺ヲ得ルノ助ケトナスニ止マレリ隨テ夫ノ後世ノ法官ノ如ク法文ノ奴隷タルカ如キ形跡ハ絕ヘテ之レアラサリシナリ是レ當時ノ特色トス然レトモ斯ノ如キ狀態ノ下ニ海上法規ハ漸次發達シテ判例モ亦山ヲ成スニ至リ隨テ海法類集ノ編纂セラルヽモノ尠ナカラス其著名ナルモノヲ左ニ揭ク

「オレロン」海法ハ十二世紀ノ頃佛國ノ西沿岸「オレロン」島ニ於テ編纂セラレタルモノナリ該海法ノ淵源ニ付テハ以前ニハ十字軍ニ依リ殊ニ「リチヤード」一世ノ力ニ依リ羅馬法系ニ屬スル地中海地方ノ法源タル「ロード」海法及ヒ「コンスラート」法典ヲ承繼シ西方貿易ニ適合スル爲メニ多少之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

トノ說行ハレタレトモ「ゲント」氏米法註釋第三卷第十三頁今日ニテハ其意見ハ行ハレサルコトヽナレリ蓋シ「オレロン」島ハ古來酒及ヒ鹽ノ商賣ニ於テ有名ニシテ其地ニ特別海事裁判所ノ設アリ隨テ許多ノ判決例アリ其判例ヲ集錄シタルモノ是レ即チ「オレロン」海法ニシテ規定ノ實質ニ付テ考フルモ純然タル獨逸法系ニ屬シ決シテ地中海地方ノ法源ヲ襲ヒタルモノニアラスト雖今日ノ學者ノ唱フル所ナリ「ワグチル」氏獨逸海法論第四十三頁第六十七頁)而シテ其編纂者ノ誰タルカニ關シテモ亦佛英二國ノ學者ハ各其名譽ヲ爭ヘリ其狀恰モコンスラート」法典ニ對シテ佛西兩國其名譽ヲ爭フト異ナラス例ヘハ佛ノ大家「クレーラック」「バーラン」「エメリゴン」等ハ「ギニア」公ヲ兼テタル女王「エリーノー」ガ「ギニア」幷ニ大西洋沿岸貿易ノ爲メニ「ガスコニー」語ヲ以テ其始メ編纂セシメタルモノニシテ其後女王ノ子「リチヤード」一世ガ英國王幷ニ「ギニア」公ヲ兼テタルノ時ニ當リ之ヲ一層增補セシメタルモノト云ヒ英ノ大家「セルデン」「コーク」「ブラックストーン」等ハ「リチヤード」ハ英國王タル資格ヲ以テ之ヲ編纂セルモノナリト云ヘリ蓋シ斯カル要用ナル法典ノ編纂者カ何人ナルカ不明ナル所以ノモノハ古代ノ法律史ノ不完全ナルニ坐セスンハアラサルナリ要スルニ編纂者ノ何人タルヲ問ハス該法典ハ爾後大ニ擴張シテ用ヰラレ十三世紀ニ於テハ英國幷ニ「カスチリン」ニ於テ既ニ法律上ノ効力ヲ認メラレ十四世紀ニ於テハ之ヲ「ブレーミツシユ」語ニ飜譯シ和蘭ノ海事裁判所ニ於テ採用セラレ此處ヨリ「ハンス」同盟ノ手ヲ經テ獨逸ノ諸市邑幷ニ「スカンヂナビヤ」ニ入リ又其何レノ時ナルヤ之ヲ確知セスト雖モ蘇格蘭及ヒ葡萄牙ニモ亦採用セラレタリ而シテ今後此等ノ各域ニ於テ發布シタル海法ハ何レモ皆多少「オレロン」海法ノ影響ヲ受ケサルモノナキナリ今其規定ノ內容ノ項目ヲ列擧スレハ船舶ノ航行及ヒ賣買、船長ノ權利義務、難船、運送賃、保安料、投貨、積荷損害、船內ノ鬪爭、衝突、碇泊、船舶ノ調度、修繕、故意ノ坐礁、水先案內、船舶共有者ノ組合、漂流物等是ナリ

「ウイスビー」ノ海法ハ千二百八十八年頃「バルチック」海中ノ一小島「ゴトランド」ノ西北岸ナル「ウイスビー」市ノ商人等ノ編纂シタルモノナリ或著者ハ「オレロン」海法又ハ「コンスラート」法典ヨリモ早ク發布サレタルモノナリト云フト雖モ「クレーラック」ノ說ニ依レハ該海法ハ唯「オレロン」法典ノ補充ノ爲メニ編纂セシモノニ

シテ「ライン」河以北ノ「バルチック」沿岸諸國民ノ海法トシテ一般ニ行ハレ其狀恰モ「オレロン」海法ノ英佛二國ニ於ケル「コンスラート」法典ノ地中海沿岸ノ人民ニ於ケルカ如クナリシト云ヘリ而シテ規定ノ實質ハ多クハ「オレロン」海法ト同一ニシテ後ニ「ハンス」同盟ノ海法ノ基礎ヲナセリ

「ハンス」同盟ハ少クトモ十三世紀ノ半ハ頃ニハ既ニ其端ヲ發シ「リユベック」「ブレーメン」「ハンブルヒ」等ノ市ト共ニ其起因ヲ同フセリ當時歐洲ハ所謂暗黑時代ニシテ一般ノ文明ハ皆退歩沈衰ノ境ニアリシカ其文明ノ餘光ト商業ノ餘榮トヲ獨リ「ハンス」ノ自由諸市ニ留メタルカ如ク唯此地方ニ於テノミ文化交通ノ隆盛ヲ見ルヲ得タリ而シテ之カ同盟ハ「リユベック」「ブラウンスウイック」「ダンチック」「コローン」等ノ諸市カ「クレーラック」ノ說ニ依レハ千二百五十四年「アズニ」ノ說ニ依レハ千百六十四年「弟メラ之ヲ結ヒタルヨリ起リ其同盟ノ目的ハ一方ニハ當時ノ封建君主ノ武斷的壓制ニ對抗シテ其自由ト特權トヲ保持セントシ他方ニハ海賊其他ノ海上ヨリ來ル野蠻人ノ襲擊ニ對抗シテ以テ商業ノ隆運ヲ維持センコトヲ計リタルナリ然ルニ「バルチック」沿岸ノ諸市ハ勿論獨逸ニ於ケル航行ニ堪ユル湖川沿岸ノ諸市ニ至ルマテ總テ皆此同盟ニ加入スルニ至リタリ而シテ能ク其同盟ヲ維持シ相互ノ紛爭ヲ絕ツノ手段ノ一トシテ海法編纂ノ必要ヲ認メタリ仍テ同盟諸州ノ領事若クハ代表者ハ千六百十四年「リユベック」ニ大會議ヲ開キ其以前千五百九十七年「アズニ」ハ千五百九十一年ニ云フ彼等カ發布シタル條例ニ加フルニ「オレロン」海法「ウイスビー」海法等ヲ參酌シテ完備シタル「ハンス」同盟ノ海事條例ヲ制定シタリ之ヲ「ハンス」海法「ジユス、ハンセーチクム、マリチマム」ト稱ス

第三節　近世期ノ法源

第十六世紀ニ入リテヨリ地中海沿岸ト北方沿岸トノ法域ノ分界ハ全ク消滅シテ個々ノ規定ノ上ニ互ニ影響スルノミナラス或ハ法典自身ヲ全部繼承シテ之ニ法力ヲ與フルカ如キコトスラアリ此ノ如ク相互ノ影響ニ依リ規定ノ實質カ漸次一樣ニナリ行クノミナラス此當時ニ於テ羅馬法ノ學問熾ンニ起リ各國皆羅馬法ヲ採用シ殊ニ海法ノ事ヲ論明スル所ノ學者モ亦續々輩出セリ例ヘハ北方ニハ「ペッキンス」「フーゴー、グロチウス」「ビンケルシエーク」等アリ南方ニハ伊太利

ノ「ストラツカ」「ロツカス」「カサレギス」及ヒ「アズニ」ノ如キ佛國ノ「クレーラツク」「バラン」「ポチエー」「エメリゴン」「ドンヰー」ノ如キアリ皆大著述アリテ以テ世界ノ法學進歩ニ大影響ヲ與ヘタリ畢竟近世ノ初期ハ即チ海法ノ沿革上學者時代ニシテ其後ノ時期即チ最近ノ時代ハ之ヲ稱シテ立法若クハ法典編纂時代ト云フヘキナリ仍テ今左ニ各國ノ立法事業ニ付テ之ヲ述フヘシ

第一　佛國

近世ノ立法的海商法ノ嚆矢ヲナシタルモノハ佛國ナリトス即チ「ルイ」十四世ノ時商事ニ關シテ二勅令ヲ出セリ其ノ一ハ千六百七十三年ニ之レヲ發シ陸上ノ商業殊ニ手形ニ關スル規定ヲ多ク包含セリ「ジャック、ザワリー」氏專ラ其ノ編纂ニ與レルカ故ニ或ハ「ザワリー」法典トモ稱ス他ノ一ハ千六百八十一年ニ之ヲ發シ專ラ海商ニ關セリ是レ時ノ宰相「コルバー」氏カ國王ヲ補佐シテ武力ノ點ニ於テ世界ニ名ヲ轟カシメタルノミナラス又能ク財務ニ長シ航海及ヒ商業ノ奬勵ヲ計リタルニ依ルモノナリ此海事勅令モ氏ノ指圖ノ下ニ編纂サレタルモノナリ而シテ其材料トシテ採リタル所ノモノハ「ハラン」ノ說ニ依レハ「ロード」海法羅馬法「コンスラート」法典西班牙王「チャールス」五世及ヒ「フイリツプ」二世ノ海事勅令「オレロン」法判決錄「ウイスビー」ノ海法「ハンス」海法「アントワープ」及ヒ「アムスアルダム」ノ保險法「ギドン、ド、ラ、メール」及ヒ千六百六十年以前ノ發布ニ係ル佛國ノ諸法令是ナリ「ギドン」ハ十六世紀ノ頃佛國「ルアン」ノ一商人「シレー」ノ著シタルモノナリト云フ其中ニハ主トシテ保險幷ニ冒險貸借ニ關スル規定ヲ說明セリ「ラバン」氏ハ又該海事勅令ノ注釋ヲ書キ其注釋タル殆ント法令自身ト同一ノ効力ヲ有シ法學者間ニ珍重サルヽト云フ而シテ爾後諸國カ海商法ヲ編纂スルニ付テハ多クハ皆佛國ノ此海事勅令ヲ摸範トセリ

佛國ニテハ其後右ノ二勅令ヲ基トシテ現行商法典ヲ編纂シ海商法ハ其第二篇ニ屬シ實ニ千八百七年九月十五日ノ公布ニ係レリ然レトモ其後社會ノ進歩ト共ニ法律ノ改正ヲ促シ之ヲ修正若クハ增補シタル法律ハ續々出テタリ今其海商篇ニ關スル部分ヲ列擧センニ船舶所有者ノ責任ニ關スル千八百四十一年六月十四日ノ法律ハ商法典ノ二百十六條及ヒ二百三十四條ヲ修正シ海上抵當權ニ關スル千八百八十五年七月十日ノ法律ハ同問題ニ關シテ屢キニ千八百七十

四年十二月十日ニ發布シタル法律ヲ廢止シテ他ノ規定ヲ以テ之ヲ補ヒ、千八百八十一年一月二十九日ノ法律ハ海上商業强制水先案內强制檢査ノ事ニ關シ、千八百八十五年八月十二日ノ法律ハ商法典幷ニ千八百四十一年六月十四日ノ法律中許多ノ規定ヲ變更シ或ハ一部ハ之ヲ廢止スルモノニシテ船舶所有者ノ責任、海員ノ給料、冒險貸借、海上保險ニ關スル規定ヲ收メ、千八百八十九年二月十九日ノ法律ハ優先權アル船舶債權者及ヒ船舶抵當權者ノ權利ニ關シ、千八百九十一年三月十日ノ法律ハ海難ニ關シ、千八百九十一年三月二十四日ノ法律ハ商法典中第四百三十五條及ヒ第四百四十六條ヲ變更セリ而シテ佛國海商法ハ或變化ノ下ニ佛國殖民地ニモ亦一般ニ行ハルヽ所ナリ

佛法典ヲ基礎トセル諸國ノ法典ヲ列擧センニ白耳義ニテハ海商ニ關シテ最初佛國法典第二編ヲ其儘採用セシカ千八百七十九年八月二十一日新法ヲ發シ其中ニハ船舶抵當權ニ關スル規定ヲ附加シ又千八百九十年五月十一日ノ法律ヲ以テ追及權ニ關スル規定ヲ補ヘリ和蘭ニテハ千八百三十八年四月十日商法典ヲ發布シ第二編ハ即チ海商ニ關セリ其中ニハ船舶抵當權ニ關スル規定ヲ收メ

其後千八百七十四年七月八日ノ法律ヲ以テ之ニ關スル或ル他ノ規定ヲ補ヘリ「グリーンランド」ニテハ千八百三十五年四月十九日商法典ヲ發布シ其第二編ハ即チ海商ニ關セリ而シテ千八百五十一年十一月十三日ノ法律ヲ以テ冒險貸借ニ關スル規定ヲ補ヘリ、土耳古及ヒ「ブルガリヤ」ハ佛國商法典第二編ニ隨ヒ千八百六十四年海商法典ヲ發布セリ、埃及ニテハ千八百七十五年海商法典ヲ發布セリ是レ全ク土耳古ノ海法典ノ摸寫ニ過キス「ヘイチ」ニテハ佛國商法典第二編ニ隨ヒ千八百二十六年三月八日海商法典ヲ發布セリ「ドミニカン」共和國ハ全ク佛法典ヲ採用シテ千八百四十五年七月五日商法典ヲ發布シ其後千八百六十五年八月七日ノ法律及ヒ千八百七十八年五月十日ノ法律ヲ以テ之ニ變更ヲ加ヘタリ、「モナコ」ニテハ千八百七十七年十一月五日商法典ヲ公布シ其第二編ハ海商ニ關セリ而シテ規定ノ實質ハ皆佛法ヲ襲ヘリ

第二　獨逸國

獨逸國ニ於テハ千八百五十六年四月十七日「バイエルン」政府ノ建議ニ基キ聯邦議會ニ於テ獨逸商法典編纂委員ヲ召集スルコトヲ決議シ千八百五十七年一月

十五日ヲ以テ該委員會ヲ「ニュルンベルグ」ニ開キ普魯西政府ノ提出ニ係ル商法草案ヲ基礎トシ之ニ墺太利政府ノ草案ヲ參照シテ討議ヲ爲シ千八百五十八年三月ニ至テ商法中第四編マテ即チ陸商ニ關スル部分ハ其第二讀會ヲ終ルニ至レリ然ルニ其會議ノ際千八百五十七年六月二十六日海商編ハ別ニ其委員會ヲ「ハンブルグ」ニ移シテ之ヲ開クヘキコトヲ議決セリ仍テ其決議ニ基キ陸商ノ部分ハ既ニ第二讀會マテ終リタル後千八百五十八年四月二十八日ヨリ海商編ノ第一讀會ヲ「ハンブルグ」ニ於テ始メタリ先キノ決議ニ隨ヘハ陸商編ノ會議ニ贊同シタル委員ハ海商會議ニモ總テ出席スル筈ナリシカ舊委員ハ其半數モ出席セサリシ仍テ之ニ加フルニ學者實業家海事專門等ノ多數ノ新委員ヲ以テシ二百四十五回ノ閉議ノ後千八百五十九年十月二十五日ニ至リ始メテ其第一讀會ヲ終リタリ第二讀會ハ其翌即チ千八百六十年一月九日ヨリ之ヲ始メ百二十六回ノ開議ノ後同年八月二十二日ニ至リテ始メテ之ヲ終リタリ而シテ海商編ノ第一讀會草案ハ商法中第三百九十五條乃至第七百八十四條ノ三百九十個條ヲ包含シ第二讀會草案ハ商法中第四百三十二條乃至第九百十一條ノ四百八十個條ヲ包含シ孰レモ商法典中第五編ニ相當セリ蓋シ陸商ノ部分中匿名組合及ヒ共算商業組合ニ關スル規定ヲ分離シテ第三編ト爲シタル結果普國草案ノ第三編タル商行爲ノ規定ハ第四編トナリ隨テ海商編ハ第五編トナルニ至リタルナリ而シテ前編即チ陸商ノ部分ハ尙ホ之カ第三讀會ヲ開キ千八百六十一年三月十二日ニ至リテ完了シ同年五月三十一日ノ聯邦議會ハ商法全典ノ草案ヲ認定シ之ヲ採用シテ以テ各邦ノ法律トナスヘキ旨ヲ各邦ニ請求シタリ各邦ハ其請求ニ隨ヒ「シャウムベルグ、リウベ」及ヒ「ヤーデグビート」ノ一部ヲ除クノ外千八百六十一年乃至千八百九十年ノ間ニ於テ普通商法典ヲ各邦法律トシテ發布セリ例ヘハ普魯西ハ千八百六十一年六月二十四日ヨリ以テ施行法ヲ發シ翌年三月一日ヨリ之ヲ實施シ「リユベック」ハ千八百六十三年十一月二日ヨリ以テ施行法ヲ發シ翌年五月一日ヨリ之ヲ實施シ「メクレブルグ、ジュウエリン」ハ千八百六十三年十二月二十八日ヨリ以テ施行法ヲ發シ翌年七月一日ヨリ之ヲ實施シ「オルデンブルグ」ハ千八百六十四年四月十八日ヨリ以テ施行法ヲ發シ同年十月一日ヨリ之ヲ實施シ「ブレーメン」ハ千八百六十四年六月六日ノ施行法ヲ以テ其翌年一月

一日ヨリ之ヲ實施シ「ハンノーベル」ハ千八百六十四年十月五日ノ施行法ヲ以テ翌年一月一日ヨリ之ヲ實施シ「ハンブルグ」ハ千八百六十五年十二月二十二日ノ施行法ヲ以テ翌年五月一日ヨリ之ヲ實施シ「シユレスウイッヒ、ホルスタイン」ハ千八百六十七年七月五日ノ施行法ヲ以テ同年九月三十日ヨリ之ヲ實施セリ

其後北獨逸聯邦ノ組織セラルヽニ及ンテ憲法第四條第十三號ニ隨ヒテ發布セラレタル千八百六十九年六月五日ノ聯邦法律ニ依リ普通商法典ヲ以テ聯邦法律トナシ北獨逸全部ニ向テ施行スルニ至レリ而シテ之ト同時ニ各州ノ施行法中商法ノ規定ニ變更ヲ加フルモノハ總テ之ヲ廢止シ唯補充的規定ノミ其効力ヲ存セシメタリ然ルニ南獨逸ノ諸州即チ「バーデン」「南「ヘッセン」及ヒ「ウルテンベルヒ」ハ千八百七十一年一月一日ノ條約ニ依リテ聯邦ニ加入シタルカ故ニ同日ヨリ商法ヲ施行スルコトヽナリ又「バイエルン」ハ千八百七十一年四月二十二日ノ帝國法律以後商法ヲ施行シ「エルザス」「ロートリングン」ノ二州ニ對シテハ千八百七十二年七月十九日ノ施行法律ニ依リテ商法ヲ施行スルコトヽナレリ然ルニ之ニ先ツテ千八百七十一年四月十六日ノ帝國憲法ニ依リ墺太利ヲ除キタ

消費者ハ其需要スル貨財ノ價格カ機械ニ因リテ低廉トナリタルカ爲ニ利益シ其利益セル部分ハ之ヲ貯蓄シテ多クハ更ニ生產業ニ投シ此ニ亦勞力ノ需要ヲ喚起スヘシ如此ク機械ハ一方ニ於テ勞力ヲ省クト同時ニ他ノ一方ニ於テ勞力ノ需要ヲ引起スカ故ニ職ヲ失ヘル勞働者ノ尤モ困難ヲ感スルハ概シテ變遷ノ際ニアリト言ハサル可ラス然リト雖モ固リ新タニ呼ヒ起サレタル勞力ノ需要ハ其數ト其種類トニ於テ機械ニ因リテ其職ヲ奪ハレタル勞力ト恰モ相符合スルモノニアラス又勞力ニ對スル新需要ト不用ニ歸シタル舊勞力トハ處ヲ異ニシ時ヲ異ニスルコトアルカ故ニ新需要ハ必スシモ失職者ノ利トナルモノニモアラス之ヲ要スルニ機械カ一部ノ勞働者ノ職ヲ奪フノ結果アルハ之ヲ事實トシテ認メサルヲ得サルナリ

第二、機械愈改良セラレ益々完全トナルニ隨テ少壯男子ノ勞働者ヲ要スルヲ減少シ低廉ナル賃錢ニ甘ンスル劣等ノ勞働者若クハ小兒婦女ノ勞働者ニテ事足ルニ至ラハ從來ノ勞働者ハ是等ノ勞働者ト競爭セサル可カラス然シテ事業主ハ機械ニ投下シタル資本ヲナルヘク速カニ回收シ又ナルヘク多クノ利

益ヲ得ント欲スルノ念アリテ此目的ヲ達スルニ足ルノ手段ヲ取ルニ躊躇セス是等ノ事情ヨリシテ機械業ニ使役セラルヽ勞働者ヲ不利ノ地位ニ陷ルヽコト

第三機械ニ關スル勞力ハ屢々勞働者ノ身体及精神ニ危害ヲ及ホスモノアルコト

機械ニ伴フ是等ノ弊害タルヤ吾人固ヨリ之ヲ輕視スルヲ得スト雖モ概テ一時一部ノ勞働者ニ不利ナルノミ之ヲ永久ニ考ヘ又之ヲ全体ヨリ見ルトキハ機械ノ與フル利益大ナリト謂ハサル可ラス故ニ吾人ハ偏ヘニ機械ヲ排斥シテ經濟上社會上ノ進歩ヲ妨クルヲ欲セサルノミナラス之ヲ妨ケント欲スルモ能ハサルナリ

機械ハ多クノ場合ニ於テ當初之ヲ買入ルヽニ大資本ヲ要シ之ヲ運轉シテ生産ヲ擧ルニ又巨額ノ流動資本ヲ要シ然シテ又其結果トシテ製出サレタル巨額ノ貨物ヲ吸收スルノ大市場ナカラサルヘカラス從テ機械ヲ利用シテ生産ヲ營マントスルノ企業者ハ技術上ノ智識ニ富ミ又商人的ノ騙引ニ巧ミナラサル可ラス是故ニ機械業ハ多ク小仕掛ナルヲ得ス否大仕掛ノ生産業タリ又大仕掛タルニ於テ充分ニ其効用ヲ發揮スルヲ得ルナリ

第四章　生産ノ組織

前章ニ於テハ凡テ生産ニ不可欠ル要素ヲ擧ケ其各者ニ付テ説明ヲ試ミタリ今此章ニ於テハ果シテ生産ハ如何ナル組織ニ於テ實行セラルヽヤニ付キ聊カ論述セント欲ス

第一節　企業ノ本質及ヒ種類

夫レ方今ノ社會ニ於テハ土地及資本ハ個人ノ私有スル所ニカヽリ然トモ生産ヲ營ムニ當リテ必要ナル是等ノ要素ハ常ニ一人ノ手中ニ存スルヲ期ス可ラス又勞力モ生産者自身ノ勞力ノミヲ以テ足レリトセサルコト多シトス加フルニ人ハ經濟上全ク自由ニシテ其隨意ニ生産ヲ經營スルヲ得ヘシ從テ生産ノ結果タル損益ハ亦自ラ之ヲ負擔セサル可ラス是ニ於テ乎貨財ヲ生産スルニハ或人カ自己又ハ他人ニ屬スル生産要素ヲ集メ自己ノ計算ニ於テ之ヲ整理シ全体ノ經營ヲ立テ之ヲ實行管理スルコトヲ必要トスコノ人ハ即チ企業者ニヨリテ營

マルルヲ當態トス

企業ハ種々ノ標準ニヨリテ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシ今重ナル者ヲ擧ン

第一、公ノ企業ト私ノ企業

公ノ企業トハ公ノ法人(國家市町村其他ノ公共團体)ノ企業者タル場合ヲ云ヒ私ノ企業トハ私人ノ企業者タル場合ヲ云フ而シテ私ノ企業ハ更ニ分レテ個人企業ト團体企業ノ二トナル前者ハ一個人カ企業者タル場合ヲ云ヒ後者ハ二人以上ノ集合体ノ企業者タル場合ヲ云フ

公ノ企業ニ付テ論スルハ事財政學ニ屬スルヲ以テ此講義ニ於テ説カス

第二、大企業及小企業

大企業小企業ノ區別ハ既ニ大ト云ヒ小ト云フ語其者ノ示スカ如ク單ニ關係的ノ區別ニ過キスシテ到底其間ニ判然タル分界線ヲ畫スルコト能ハス或ハ統計ノ目的ノタメニハ獨逸國ニ於テ千八百七十五年ノ職業統計ノ際採用シタルカ如ク五人以下ノ勞働者ヲ使用スルモノヲ小企業トナシ其以上ハ凡テ之ヲ大企業トナスモ可ナルヘシト雖トモコト固ヨリ一時ノ便宜ノタメニ設ケタルモノニ過キスサレハ單ニ大体ニ付テ凡テ大規模ヲ以テ營ナマルル企業即チ廣大ナル場所ヲ占メ多數ノ勞働者ヲ役シ巨大ノ資本ヲ運轉シテ營ナムモノ之ヲ大企業トシ反之凡テ小規模ニテ營ナマル、企業之ヲ小企業トナシテ區別シ得ルニ過キス

第二節　個人企業及團体企業

第一欵　個人企業

個人企業ノ利益凡ソ三アリ

一、損益ノ負擔一ニ其身ニアルカ故ニ企業者ノ利欲心盛ニ活働シ非常ニ業務ニ注意シ業務ニ勉勵スルコト

二、企業者ノ運動ヲ羈束スルモノナキカ故ニ充分材ニ應シテ相當ノ處置ヲ施スヲ得ルコト故ニ個人ノ企業ハ臨機ノ決斷ヲ要スル事業ニ適ス

三、企業者ハ直接ニ勞働者ト密接シ二者ノ間ハ單ニ利害損得ノ關係ニ止マラスシテ情誼ノ關係トナリ易キコト

個人企業ノ不利凡ソ二アリ

一、人ノ力ニ限リアリ又財産ニモ限リアルカ故ニ企業ノ範圍ニ制限アルコト是故ニ個人ノ企業ハ概子非常ニ大資本ヲ要シ又ハ危險ヲ犯シテナスヲ要スルカ如キ事業ニ適セス

二、企業カ企業者一身上ノ有様ニ依賴スルノ甚シキコト即チ企業其者カ企業者ノ適否勤惰疾病死亡等ニヨリテ大ニ影響サルヽコト

第二欵　團体企業

抑モ團体ノ企業トハ二人以上ノ人カ其勞力財産ヲ合セテ企ツル所ノ事業ヲ總稱シ其種類中一ニシテ足ラス但シ團体其者カ之ヲ組織スル個人ヲ離レテ別ニ一個ノ法人ト認識セラレ獨立シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フヲ得ルヤ否ハ各國法制ヲ異ニスルニヨリテ同シカラス一國ニ於テ法人ト認ムルモノ必スシモ他國ニ於テ法人ト認ムルモノニアラス今團体企業ノ重ナルモノヲ擧レハ左ノ如シ

一、共通ノ計算ヲ以テ一時相聯合シテ一定ノ業務ヲ營ナムモノ即チ英語ニ所謂「シンディケート」コレナリ

二、或人（我商法ニ所謂匿名組合員）カ他人ノ企業ニ一定ノ財産ヲ供シ自ラハ業務ノ施行ニ與カラサレトモ損益ハ共同シテ負擔スルモノ、我商法ニ所謂匿名組合（商法二百九十七條以下參照）

三、合名會社（商法四十九條以下）

四、合資會社（商法百〇四條以下）

五、株式合資會社（商法二百三十五條以下）

六、株式會社（商法百十九條以下）

七、產業組合、產業組合トハ獨乙語ノ所謂「エルウエルブス、ヴンド、ラッルトシャフツ、ゲノッセンシャフテン」ニシテ多クノ人カ共同シテ相互ノ利益ヲ進メンカタメニ作レル集合体ヲ云フ但シコノ中ニハ生產ヲ以テ目的トセサルモノアルヤ勿論ナリ信用組合、消費組合、原料購買組合、生產組合等之ニ屬ス

夫レ團体ノ企業ハ概シテ

一　一個人ノ限リアル勞力及財產ノ不足ヲ補フテ經濟事業ノ發達ヲ促カスノ利アリ

二、企業者一身上ノ有様ニ影響セラルコト少ナキノ利アリ

然リト雖モ團体ノ企業ハ之ヲ個人ノ企業ニ比ヘ概シテ下ノ不利アリトス

一、企業ノ管理ハ匿名組合ノ場合ヲ除クノ外多數ノ團体員ノ意志ニヨリテ左右セラル從テ臨機應變敏速ノ處置ニ出ツル能ハサルコト

二、損益ハ凡テ團体員間ニ分タルルヲ以テ團体員ハ責任ノ感情ニ乏シク業務ニ熱心スルコト薄ク又勞働者トノ關係極メテ冷淡ニ流ルルノ傾アリ

今前ニ掲ケタル種々ノ企業中最モ主要ナル合名會社以下ノ五者ニ付キ少シク詳述セント欲ス

(甲)合名會社

合名會社ハ二人以上ノ人カ其勞力財産ヲ出資シテ組織セル集合体ニシテ然カモ其社員ノ責任ハ其出資ニ止マラサルモノヲ云フ即チ社員ハ會社ノ負債ニ付テ全財産ヲ以テ義務履行ノ責ニ當ラサル可ラス

如此ク社員ノ責任無限ナルヲ以テ社員ハ會社ノ事業ニ利害ヲ感スルコト深ク事業ニ勉ムルノ利アリサレハ此會社ハ企業者カ場所ヲ異ニシテ夫レ々業務ヲ執行セサル可ラサル場合例ヘ一人ハ甲地ニ在テ貨物ヲ買入レニ從事シ又一人ハ乙地ニ在テ其販賣ニ從事スル場合ノ如シ)ニ於テ殊ニ利アリトス

然リト雖モ此會社ハ其性質上互ニ相信任スルモノヽ間ニノミ成立シ得ヘキモノナルヲ以テ社員ハ勢少數ナラサルヲ得ス從テ又巨額ノ資本ヲ集ムルコト能ハスタメニ此會社ハ又事業ヲ營ナムニ適スルコト少ナシ

(乙)合資會社

合資會社ハ有限無限二種ノ社員ヨリ成ルヲ必要トシ然シテ此會社ノ妙用ノ存スル所ハ或事業上ノ智識技能ニ富ミ然モ充分ノ資本ナキ人(コノ人無限責任社員トナル)ヲシテ資産者(有限責任社員)ノ資本ヲ得セシムルニアリトス合資會社ハ合名會社ヨリモ多數ノ人ヲ集メ巨額ノ資本ヲ集ムルヲ得然リト雖モ未タ以テ充分ナリトナサス蓋シ此會社ハ尚重キヲ人ニ置キ廣ク資本ヲ集メテ大事業ヲ營ムコト能ハサレハナリ

(丙)株式合資會社

株式合資會社ハ合資會社ト次ニ述ル株式會社トノ中間ニ位スルモノニシテ即チ合資會社ノ有限責任社員ノ出資ヲ一定平等ノ株式ニ分チタルモノナリ

(丁)株式會社

團體ノ企業中今世紀來經濟上ノ發達ニ重大ノ影響ヲ及ホセルモノヲ株式會社ノ形式ヲ以テナシタル企業トナス抑株式會社ハ合名會社ト異ナリテ全ク人ヲ主トセスシテ財産ヲ主トスルモノナリ會社ノ資本ハ之ヲ多數ノ株式ニ分チ各株式ノ金額ハ一定平等ニシテ何人ト雖モ此株式ヲ引受ケテ株主タルコトヲ得ヘク株主相互間ノ信用組織ノ如キハ毫モ問フ所ニアラス而シテ株主ノ責任ハ有限ニシテ即チ單ニ其出資額ニ止メリ其以上ハ決シテ會社ノ負債ニ對シテ責ヲ負フコトナシ且株主ハ自由ニ其株ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得又何時ニテモ之ヲ貨幣ト引替ユルコトヲ得ルナリカノ今世紀來大商業鐵道業水道事業鑛山業等巨額ノ資本ヲ要シ又ハ危險ノ大ナル種々ノ事業カ此會社ノ形式ニ因リテ營マレ成効シタルノ偶然ナラサルヲ知ルヘシ

然リト雖モ株式會社ハ業務上種々ノ機關ヲ具ヘサル可ラス即チ會社ノ意思其營業ノ方針ヲ決定スル株式總會アリ會社ヲ代表シテ其事業ヲ執行スル取締役アリ取締役ノ行爲ヲ監督スル監査役アリ是等ノ下ニ多クノ役員ヲ使用セサル可カラスサレハ全體ニ費用ヲ要スルコト多ク動モスレハ冗費生シ易ク又到底小企業ノ堪ユル所ニアラス加フルニ會社ノ業務ヲ執行スル役員ハ法律命令定款總會ノ決議等ニ因リ種々ノ牽束ヲ受ルヲ以テ臨機應變ノ處置ヲ施スコト難シ要之株式會社ナルモノハ大資本ヲ要シ一定ノ規則ニ隨フ業務ヲ施行スルヲ得敢テ常ニ臨機應變敏速ノ處置ヲ要セス又ハ要スルコト少ナキ事業ヲ營ムニ尤モ適當スルモノナリ交通運搬銀行業保險業鑛山冶金業瓦斯電氣點燈業ノ如キ即チ是レナリ

株式會社ニ伴フノ不利亦少々ナリトセス抑株式會社カ資本ヲ集ムルニ容易ナルヨリシテ輕々シク見込ナキ事業ヲ企テ又ハ奸譎ノ徒全ク山師的ノ事業ヲ企テ世人ヲ瞞着シテ私利ヲ營ムコトアリ又凡ソ會社ノ事業ニ相當スル役員ハ固ヨリ一定ノ報酬ヲ受クヘシト雖モ其力ヲ盡シテ羸ケ得タル利益ハ株主全體ニ分割サレ自己一身ノ受ル所ハ概子僅少ニ止マルカ故ニ會社ノ爲ニ盡力スルノ念兎角薄弱ニシテ其働稍モスレハ不深切ナルヲ免レス是レ株式會社ニ普通ナル欠點ナリ況ヤ株主全體ハ到底充分ニ役員ヲ監督スルコト能ハサルヲ以テ若

シ夫レ役員其人ヲ得サランカ彼ハ獨リ自ラ又ハ少數ノ株主ト連合シテ其權限ヲ亂用シ或ハ投機ヲ試ミ或ハ私利ヲ營ナミ甚シキニ至テハ法律道德ヲ無視シテ不實ノ貸借對照表ヲ作リ虛僞ノ配當ヲナシ又ハ株式ヲ弄テ其賣買ヲ事トスルカ如キコトナキニシモアラサレハカノ法律上株主總會ニ財產目錄貸借對照表營業報告書ニ損益計算書等ヲ提出セシメ又一般公衆ニ貸借對照表ヲ公告セシムルカ如キ規定ヲ設クルハ役員カ會社ノ實情ヲ隱蔽シ不正行爲ヲ營ムヲ防クノ主意ニ出タルモノナリ

(戊)產業組合

產業組合トハ凡テ或經濟上ノ利益目的ヲ達センカ爲ニ組合員協同シテ一定ノ業務ヲ營ム所ノ團體ヲ云ヒ然シテ目的ノ異ナルニ隨テ此組合ニ種々ノ種類アリ今其重ナルモノニ付キ大體ノ說明ヲ加フヘシ

(イ)信用組合　信用組合ハ重ニ農工商ノ細民カ低利ニテ營業資本ヲ得ンカ爲ニ作ル所ノ組合ナリ組合ノ資本ハ持分ヨリ成リ組合員ハ通例其持分金高ヲ一時ニ拂込マスシテ定期ニ少シ宛拂込ムモノナリ而シテ拂込カ持分金高ニ充ツル迄ハ毎計算期ノ利益金ヲ配當セス直ニ之ヲ持分拂込ノ中ニ繰入ル

組合ハ此持分拂込金ヲ以テ營業資本トナシ其組合員ニ限リテ貸金ヲナシ相當ノ利子ヲ徵ス又必要ナルトキハ組合ハ組合財產ニ對スル信用ヲ基トシ一定ノ利子ヲ支拂フテ他人ヨリ借入金ヲナスモノナリ

組合ノ業務ヨリ生スル利益金ハ持分高ニ應シテ組合員間ニ割賦金トシテ配當ス但シ其一小部分ハ之ヲ引去リテ唯借金トナス新加入者ヨリ取立ル入社金モ亦之ヲ準備金ニ繰入レ業務上非常ノ損失アルトキハ準備金ヨリ之ヲ補足ス

此組合ニ於テモ役員カ業務ヲ施行スルニ誠實巧妙敏活ナルヘキハ勿論殊ニ貸付ニ注意シ又借入レヲ愼シムハ其健全ナル發達上極メテ重要ナルコトナリトス而シテ此組合ハ尤モ獨乙ニ行ハレ千八百九十二年五月三十一日ノ統計ニヨレハ同國ニ於ル信用組合ノ數四千四百〇一ニ上レリト云フ

(ロ)消費組合　消費組合ハ食料品薪炭等ノ日用品ヲ多量ニ買入レ組合員ハ之ヲ小賣スル組合ナリ

組合ノ資本ハ組合員カ定期ニ少シ宛拂セ込ム金額ヨリ成ル又新ニ組合員トナ

ルモノハ別ニ加入金ヲ差出スヲ要ス加入金ハ組合ノ準備金ニ繰入ルヽモノナリ

組合ノ利益ハ組合カ多量ニ且ツナルヘク生産者ヨリ直接ニ現金ニテ買入レタル貨物ヲ亦現金ニテ市價ヲ以テ組合員ニ賣渡スコトヨリ生ス而シテ此利益ハ毎計算期ノ終リニ組合員ニ通例其消費寫ニ應シテ配當ス

此組合ハ獨リ經濟事業ニ從事スルモノニノミ限ラス凡テ消費者タルモノヽ設立シ得ヘキモノナリト雖モ殊ニ勞働者ニシテ善善ナル管理ノ下ニ之ヲ設置センカ其狀態ヲ改良シ其地位ヲ高ムルニ於テ大ニ効アルヤ疑ナシ而シテ此組合ハ尤モ英國ニ行ハル千八百九十年末ノ同國現在數千四百十八ニシテ組合員ノ數ハ百〇二万六千九百十二人組合資本金高ハ千〇六十七万七千四百三十二磅ナリシト云フ

(ハ)原料購買組合　原料購買組合ハ同一ノ營業ニ從事スル小企業者例ヘハ靴匠、裁縫匠相集リ其營業用ノ原料ヲ購買シテ相互間ニ頒ツヲ以テ目的トスル組合ナリ

(ニ)器具機械使用組合　此組合員ノ營業上所要ノ機具機械ヲ買入レ之ヲ組合員ニ貸與シ相當ノ使用料ヲ徴收スルモノナリ

(ホ)販賣組合　此組合ハ組合員所產ノ貨物ヲ組合ノ商店ニ於テ組合員各自ノ計算ヲ以テ販賣スル組合ナリ

(ヘ)生產組合　此組合ハ組合員相共同シテ生產事業ヲ營ナム所ノ組合ナリ

生產組合ヲ設立維持スルニ當リテハ種々ノ困難アリ其重ナルモノヲ擧クレハ

一　充分ノ資本ヲ集メ難キコト殊ニ勞働者ヨリ成ル生產組合ノ場合ニ於テ然リ

二　資本家ノ營メル事業ト競爭シテ得意ヲ得ルノ難キコト

三　組合員中ヨリ適當ナル營業管理者ヲ選ムノ難キコト

是等ノ困難ナルヲ以テ生產組合ハ從來効ヲ奏シタルコト少ナシ然レトモ若シ此組合ニシテ能ク成立スルヲ得ンカタメニ組合員ノ智識道德ヲ進メ又其狀態ヲ改良シ地位ヲ高ムル上ニ頗ル益スル所アルヤ毫モ疑ヲ容レス實ニ生產組合ノ健全ナル成立ヲ計ルニハ

一　組合員ノ數餘リ多カラス

二　組合員和合一致シテ忍耐ト勉勵ヲ以テ業務ニ當リ

三　智能ニ富ミ且誠實ナル人カ組合業務ヲ管理シ

四　其營ナム生產事業等ハ大資本ヲ要セス又危險ノ大ナラサルモノナルコトヲ必要トスルナリ

第三節　大企業及小企業

夫レ大企業ハ之ヲ小企業ニ比シ種々ノ利益アリ今之ヲ擧レハ

第一　凡テ規模ヲ大ニスレハ全体ノ費用ハ却テ割合ニ增加セサルモノナリ例ヲ工業ニ取リテ說明センニ同シク機械ヲ据付クルトシテモ二十馬力ノ機械ハ、十馬力ノ機械ニ比シテ二倍ニ價ヒセル其運轉費用モ割合ニ少ナシ其他工場ヲ建テ火ヲ點スル等ノ費用ニ於テモ亦同樣ノ利得アリ要之大企業ハ事業ノ開始繼續ニ要スル一般ノ費用ヲ節スルコト割合ニ大ナルヲ得ルノ利益ナリ

第二　大企業ハ分業機械其他良好有利ナル生產方法ヲ充分ニ利用シ得ルノ利益アリ其結果トシテ勞力ヲ利用シ原料ノ消費器具機械ノ減却ヲ減シ廢物殘物

既刊講義錄

○先月三十日及ヒ本月五日ニ發行シタル第三部第一部ノ目次左ノ如シ

第三部　第六號

- 國際公法　秋山學士
- 行政法　竹井學士
- 刑法總論　古賀學士
- 刑法各論　勝本學士
- 憲法　副島學士

第一部　第七號

- 民法原理　梅博士
- 強制執行　遠藤學士
- 民法債權　兩角學士
- 債權總則　加古學士
- 羅馬法デコモラール　掛下學士
- 親族法　小宮學士
- 物權法

一　組合員ノ數餘リ多カラス

二　組合員和合一致シテ忍耐ト勉勵ヲ以テ業務ニ當リ

三　智能ニ富ミ且誠實ナル人カ組合業務ヲ管理シ

四　其營ナム生産事業等ハ大資本ヲ要セス又危險ノ大ナラサルモノナルコトヲ必要ムスルナリ

第三節　大企業及小企業

夫レ大企業ハ之ヲ小企業ニ比シ種々ノ利益アリ今之ヲ擧レハ

第一　凡テ規模ヲ大ニスレハ全体ノ費用ハ却テ割合ニ增加セサルモノナリ例ヲ工業ニ取リテ説明センニ同シク機械ヲ据付クルトシテモ二十馬力ノ機械ハ十馬力ノ機械ニ比シテ二倍ニ價ヒセル其運轉費用モ割合ニ少ナシ其他工場ヲ建テ火ヲ點スル等ノ費用ニ於テモ亦同樣ノ利得アリ要之大企業ハ事業ノ開始繼續ニ要スル一般ノ費用ヲ節スルコト割合ニ大ナルヲ得ルノ利益ナリ

第二　大企業ハ分業機械其他良好有利ナル生産方法ヲ充分ニ利用シ得ルノ利益アリ其結果トシテ勞力ヲ利用シ原料ノ消費器具機械ノ減却ヲ減シ廢物殘物

既刊講義錄

○先月三十日及ヒ本月五日ニ發行シタル第三部第一部ノ目次左ノ如シ

第三部　第六號
- 國際公法　秋山學士
- 行政法　竹井學士
- 刑法總論　古賀學士
- 刑法各論憲法　勝本學士　副島學士

第一部　第七號
- 民法原理　梅博士
- 強制執行　遠藤學士
- 民法債權　兩角學士
- 債權總則　加古學士
- 羅馬法　デュモラール
- 親族法　掛下學士
- 物權法　小宮學士

○入學志望者ハ此際至急入學スルコトヲ要ス若シ滿員ニ達スル時ハ入學ヲ謝絶スルコトアルヘシ

○月謝ハ滯ナク前納スルコトヲ要ス月謝前納ノ分ニ對シテハ必ス發行期日ニ發送スヘシト雖モ月謝前納ナキ分ニ對シテハ發送ヲ停止ス

○月謝金ノ切レタルトキハ封皮ニ月謝切ノ印ヲ押捺スヘキニ因リ至急送金スヘシ

若シ二ケ月以上送金ナキトキハ缺本ヲ生シタル場合ニ於テ送本セサルモ異議ヲ申立ツルコトヲ許サス

明治三十二年五月九日印刷
明治三十二年五月十日發行

編輯兼發行者　東京市牛込區矢來町三番地　上野政雄
印刷者　東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地　金子活版所
發行所　司法省指定　和佛法律學校
所在（東京市麴町區富士見町六丁目十六番地）
電話（本局千二百七十四番）

明治廿二年十二月九日內務省許可